

タ提議セサリシカ現ニ査スルニ聯合軍ハ已ニ陸統海路ヨリ
撤回シタルニ付糞ニ分割シタル龍口萊州及膠州灣ニ接連
シテ交戦区域トナシタル各地ハ之ヲ中立状態ニ復スヘク是
レ一時両方ノ軍事使用ニ供スルノ主意ニ一致スルモノナリ
青島ノ海面ハ未タ掃清セスト雖モ而カモ旁山灣及金家口嘴
等ノ処ハ航路近便ニシテ聯合軍ノ撤退ハ均シク此道ヨリ運
送セルヲ以テ将来近キヲ捨テ遠キヲ取り再ヒ龍口一帯ヲ經
ルノ必要ナシ現在戦事終リヲ告ケシヨリ既ニ二ヶ月ニ近ク
猶予已ニ久シ前記ノ交戦区域ニ付テハ各国ニ通知シ取消ヲ
行ヒ中立地域トシテ一律ニ弁理スヘキコトヲ声明スヘシ依
テ誤会ヲ免レンカ為メ之ヲ外務省ニ通告シ並ニ本政府誠意
ノ在所ヲ詳細ニ説明セラルベシ
又線路ノ兵隊ニ付テハ屢々日置公使ニ交渉シ將來鐵道専門
員ヲ以テ之ニ代フヘキコトヲ声明セリ右ハ可成速ニ実行ス
ル様督促セラルベシ

五五九 十二月三十一日 加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛(電報)

我ガ承諾ナク交戦地域撤廃強行ニ対シ中国側へ
警告方訓令ノ件

第六三六号

貴電第八九三号ニ関シ我軍隊未タ全ク撤退セサルノミナラ
ス膠州灣ハ陥落シタルモ日独兩國ハ依然交戦状態ニ在ル今
日中立除外区域ノ撤廃ハ断シテ其時機ニ非スト思考セラ
ル処一応陸軍側トモ協議ノ必要アリ目下年末年始休暇中
ニテ急速ニ運ヒ兼ネル事情モアルニ付追テ更メテ可申進義可
有之モ差当リ貴官ハ支那当局者ニ対シ帝國政府ノ承諾ナク
勝手ニ撤廃ヲ実行スルガ如キコトアラハ必ス重大ナル事態
ニ立到ルヘキコトヲ強硬ニ申入置カルル様致度シ尚十二月
三十日在本邦支那公使ヨリモ同様ノ申出アリタルニ付松井
次官ヨリ大体以上ノ趣旨ヲ以テ答ヘ置キタリ御含迄申添ユ

事項七 对中国諸問題解決ノ為ノ交渉一件

五六〇 八月七日 在中国小幡臨時代理公使
ヨリ 加藤外務大臣宛(電報)

本邦中国亡命者取締問題ニ関シ曹汝霖トノ会谈
ニ付請訓ノ件

第五五〇号

去ル七月十七日外交部ヨリ別電第五五一号ノ通在本邦支那
亡命者取締ノ件ニ関シ覚書ヲ送り越タルニ付数日ヲ経テ高
尾ヲ曹次長ニ会见セシメ曾テ山座公使カ提出シタル南支鉄
道問題其ノ他支那ニ於テ日本人ノ經濟的施設ニ関シ支那政
府カ誠実ナル考量ヲ尽ス態度ヲ執ラサル限り本官トシテハ
遺憾ナカラ右ノ覚書ハ我政府ニ取次ク能ハサルヘキ旨ヲ告
ケシメタルニ當時曹ハ袁世凱ニ会见ノ上親シク其ノ意嚮ヲ
確メ更ラニ何分ノ回答ヲナスヘシト約シタル儘今日迄何等
挨拶ヲナスコトナク打過キタル次第ノ所八月六日突然曹汝
霖ヨリ本官ニ会见ヲ求メ来リ二時間余ニ亘リ時局問題其他
現ニ未決ノ儘懸案トナリ居ル二三問題ニ付意見交換ノ末

七 对中国諸問題解決ノ為ノ交渉一件 五六〇

予テ外交部ヨリ送附越シアル在本邦乱党取締ニ関スル覚書

ニ談及シタルヲ以テ本官ハ依然前説ヲ固持シ支那側ニ於テ
日本ノ欲スル鐵道經濟問題ニ付公平且誠実ノ態度ヲ示ササ
ル限り本問題ヲ本官ノ責任ニ於テ我政府ニ取次ク能ハサル
コトハ曾テ高尾ヲシテ述ヘシメタル通ナル旨ヲ答ヘタル所
曹ハ高尾ヨリハ余リ具体的ニ話ヲ承知セサルモ乱党取締ニ
関シ日本国政府ニ於テ切実弁法ヲ講シ誠実ニ支那現下ノ
建設的政治方針ヲ援助シ呉ルルニ於テハ經濟問題ニ付テハ
日本国ノ要求余リニ過大ナラサル限り或ハ袁世凱ヲ説得シ
テ話ヲ進メ得ルヤモ計リ難シト思考ス就テハ日本国ハ如何
ナル程度迄乱党ヲ取締リ呉ルルヤ將又經濟問題ニ関シ日本
ノ希望スル所ハ如何ナル程度ナリヤ承知シタキ旨申述ヘタ
ルニ付本官ハ目下ノ処南支鉄道以外如何ナル經濟的事業カ
日本ノ欲スル所ナルヤ政府ノ意向ヲ確メサル限り何トモ明
言シ難キノミナラス乱党取締ノコトモ日本国政府ハ今日果
シテ其意志アルヤ否ヤモ承知セサルヲ以テ何等具体的説明

ヲ与ヘ難キモ支那政府力如何ナル程度ノ乱党取締ヲ希望スルモノナリヤ將又如何ナル程度ノ利権ヲ日本ニ許与スル考ナリヤ一応袁世凱ノ意向ヲ確カメラレタル上来館セラルレハ本官ハ個人ノ資格ニ於テ之ヲ考慮シ場合ニ依リテハ帝國政府ニ建議スルモノナリト答ヘタリ之ニ對シ曹ハ三日以内ニ袁ノ意向ヲ確メ回報スヘシト約シタリ

本官右曹トノ会見ノ際感知シタル所ニ依レハ曹ハ袁世凱ノ内意ヲ受ケ我方ノ意向ヲ探クル為来館シタルハ勿論歐洲戦乱ニ乘シ我国力支那ニ對シ何等力高圧的態度ニ出ツルコトナキカヲ彼等ハ切リニ懸念シツツアル趣ナレハ或ハ此等ノ事ヲ手懸ニ此際我對支政策ヲ瀕踏ノ為參リタルモノトモ察セラルル処予テ本官東京出発ノ際小池政務局長ヨリ内話ノ次第モアリ我政府ノ御方針依然當時ト相變ラサルニ於テハ寧ロ此際之ト交換的ニ南支鉄道其他重大ナル經濟問題ヲ協定シ置クコト策ノ得タルモノト考ヘラルルノミナラス若シ歐洲戦局意外ニ長引キ支那ニ於テ大々的發展策ヲ画策スヘキ時機モアラハ其節ハ右様ノ約束ハ反古ト為スモ差支ナカルヘク寧ロ先方ヨリ申出アリタルヲ幸ニ此際獲得シ得ヘキ相当ノ利権ヲ我手ニ収ムルノ舉ニ出ヅルコト然ルヘキカト愚考致サルル次第ニ付次回曹トノ会見迄ニ何分ノ御意見

本件ヲ稟議セラレ其ノ結果承知シタシト述ヘタリ本官ハ之レヲ諾シ兎モ角来意ノ次第ハ政府ニ電稟スヘキコトトスヘキモ本官カ徐國務卿ニ會談セル當時ト今日トハ幾分事情モ變更シ居ルノミナラス爾来日本國政府ニ於テモ極力革命党取締ニ意ヲ用キツツアル次第ハ御承知ノ通ナルヲ以テ此レ以上帝國ヘ取締ヲ必要ト考ヘ居ルヤ否ヤモ明カナラサル次第ナリト答ヘタル所曹ハ稍々失望ノ体ニ見受ケラレタリ是レヨリ互ニ個人トシテ隔意ナキ雜談ニ時ヲ移ス内曹ハ日支ノ提携ヲ為シ兩國ノ意志ヲ疏通スルハ此際ヲ以テ絶対ノ機會トナストカ此機會ニ乖離セル從來ノ關係ヲ恢復シ兩國經濟聯絡ノ新氣運ヲ作ルヘシナト逐次ニ甘言好語ヲ羅列シ如何ニ支那國カ本件解決ニ焦慮シ居ルヤ推測ニ余リアラシメタリ只本官ノ最モ不思議ニ感シタルハ支那政府ノ吾ニ對スル態度ニスノ如キ激變ヲ来シタル真因ハ抑モ那邊ニアルヤノ一点ナリ何カ故ニ支那政府ハ急ニスル緩和的態度ニ豹變スルノ必要ヲ感スルニ至レルヤ此事情ヲ明ニスルハ正ニ当面ノ我對策ヲ決スルニ最モ必要ナル点ト思料スルモ如何ニセン本官ハ其真正ノ事情ヲ発見スルニ苦シム所ニシテ若シ革命党ノ日本國ニ存在スルコトカ支那政府ノ治安維持ヲ威嚇スルニアリトスレハ本件ハ寧ロ今日ニ於テセサル

至急御電訓ヲ請フ若シ万一右ノ基礎ニテ話ヲ進行シ可然トノ御意見ナレハ我要求事項ノ程度及乱党取締ニ付テノ御内意本官含迄ニ御電示アリタシ

五六二 八月十一日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ 加藤外務大臣宛(電報)

本邦中国亡命者取締問題ニ関シ曹汝霖再ビ我意向問合ニ付至急回訓方稟請ノ件

第五六二号

往電第五五〇号ニ関シ八月十日曹汝霖ヨリ本官ニ会見ヲ求メ前回懇談ノ次第ハ去ル八月八日篤ト袁世凱ト協議ヲ遂ケタル結果此際日本在留ノ革命党ニ對シ日本國政府カ誠実ニ取締法ヲ講シ支那政府ニ安心ヲ与ヘラルル様ノ措置ヲ執ララルニ於テハ支那政府ハ經濟問題ニ関シ出来得ル限り日本ノ希望ニ応スルコトニ衷總統ニ於テ決心スルニ至リタル次第本官ニ通告スルト同時ニ何等カ意見アラハ具体的ニ之ヲ交換シタキ旨申出デタルニ付本官ハ帝國政府ヨリ何分ノ権限ヲ与ヘラレサル限り何等意見ヲ述フルノ地位ニアラサルヲ遺憾トスル旨挨拶シタル所曹ハ然ラハ至急日本國政府ヘ

モ從來既ニ幾度モ其機會アリタル次第ナリ將又歐洲戦局ノ拡大シテ干戈ノ東洋ニ波及スルニ至レル暁ニ於ケル帝國ノ活躍ヲ懸念シテノ結果トスレハ支那トシテハ今少シ平靜ニ時局ヲ推移ヲ視察シ窮極ノ場合ニ至リ其態度ヲ決定スルモ必スシモ遅カラストセサルヤニ思ハル兎ニ角斯ル際ニ於ケル支那人ノ心理作用ハ常識ヲ以テ推斷シ難キ次第ナルモ本官ノ見ル所ニ於テハ矢張り内政問題ヨリモ寧ロ戦局ノ影響ヲ早計ニ悲觀シ我將來ノ態度ヲ疑惧シテ前段所述ノ考ヲ決シ支那一流ノ体面ヲ繕フ為革命党取締問題ト交換的ニ提起シ来リタルニアラスヤトモ察セラルル次第ナリ兎ニ角我政府ノ意向ニ関シ曹汝霖ニ返答ヲ約セル次第モ有之ニ付何ントモ政府ノ御意嚮至急御回電ヲ仰ク

五六二 八月二十六日 在中国日置公使ヨリ 加藤外務大臣宛(電報)

对中国問題解決ノ好機到レルコト及右交渉ニ付 意見上申ノ件

別 電一 同日日置公使發加藤外務大臣宛電報第六一

要求条件 六号

一 同右電報第六一七号 交換条件

第六一五号

日独国交断絶シタル結果支那朝野ノ人心甚シク鋭敏トナリ殊ニ政府当路者ノ如キハ日本国力近ク山東ノ一角ニ兵ヲ上クル曉事態如何ナル發展ヲ視ルニ至ルヘキヤニ付大ニ疑懼ノ念ヲ懷キ今ヤ専心我カ態度ヲ注視シ只管我ノ感情ヲ害ハサランコトヲノミ顧慮シ居ル情勢ナリ此ノ時機ハ对支交渉案件解決上絶好ノ機会ナリト思料ス依テ本官ハ篤ト熟慮ノ末国書捧呈後可成速カニ大總統ニ内謁ノ上先ツ帝國ノ对支政策根本義ハ飽迄支那政府ト相和親シ兩國共通ノ利益ヲ増進スルニ在リ從テ毫末モ侵略的意圖アルニアラサルコトヨリ説キ起シ貴電第三六七号御訓令ノ次第ヲ懇談シタル上今回ノ歐洲事變ハ甚シク日本ノ国論ヲ刺戟シ今ヤ民心一般ニ高調ニ達シ一部急激論者中ニハ此機会ヲ利用シ高圧手段ニ訴ヘテモ支那ニ於テ日本国ニ有利ナル新局面ヲ開カサルベカラスト唱道スル者アリ其勢ノ強烈ナルコト到底南京事件當時ノ比ニアラサルガ彼等ノ極端過激ナル議論ハ大概支那ノ現政府ヲ以テ日本国ニ好意ヲ有セサルモノト見做スノ誤解ヨリ發スル次第ナルヲ以テ帝國政府ハ有ユル方法ニヨリ袁大總統始メ支那政府当局者ガ常ニ親日思想ヲ懷キ苟クモ渝ラサルモノナルコトヲ切論シ極力其ノ緩和ヲ計リ居及ボスニ至ルニ付日独將ニ支那領域ニ於テ干戈相見エントスル現下非常ノ時局ニ顧ミ遲滞ナク一併承諾ヲ与ヘラレタキ旨強硬ナル態度ヲ以テ敷衍説得シ最後ニ若シ支那政府我要求ヲ快諾スルニ於テハ我モ亦支那政府ニ好意ヲ寄スル証左トシテ別電第六一七号所載ノ各項ニ付キ保証ヲ与フルニ咨ナラサルコトヲ言明シ且右ハ結局文書ニ認メテ交付スルコトヲ約シ以テ我要求ノ貫徹ヲ容易ナラシムル様致シタシ

(別電一)

八月二十六日在中国日置公使發加藤外務大臣宛電報

中国ニ対スル我要求条件ニ関スル件

別電第六一六号

要求条件

- 第一 関東州租借期限ヲ更ニ九十九年間延長スルコト
- 第二 南滿洲鉄道ハ右延期間内之レヲ還付又ハ壳戻サザ

ルモ今ヤ尋常一様ノ手段ヲ以テシテハ大勢ヲ動かスコト殆ンド望ナキ有様トナリ此情勢ニシテ徒ラニ推移センカ遂ニ如何ナル結果ニ立至ルヤモ難計洵ニ憂慮ニ堪ヘサルニ付此際賢明ナル袁大總統ニ於テ兩國国交ノ大局ニ鑑ミ支那政府ノ日本国ニ対スル好意ヲ具体的方法ニ依リ表彰シ以テ我
 国論ノ緩和ニ資セラレタキ旨ヲ縷述シ別電第六一六号ニ列記シタル要求条件ヲ覚書ニ認メテ手交シタル上滿蒙ニ関スル事項ニ付テハ本使赴任ノ際親シク閣下ヨリ訓令セラレタル趣旨ヲ体シ同地方ニ対スル我特殊ノ地位ハ二回ノ大戦争ニヨリ莫大ノ金ト血トヲ以テ獲得シタルモノニシテ牢乎トシテ抜クヘカラサル根底ヲ有シ殊ニ接壤地タル關係上右特殊ノ地位ハ自然的ニ發展スヘキハ疑ヲ容レサル所ニシテ如何ナル力ヲ以テスルモ蓋シ抑制シ得ザル旨ヲ切言シ袁大總統ニ於テ虚心坦懷單ニ必然到来スヘキ事態ヲ早キニ臨ミテ確認シ国交ノ親善ヲ図ルノ見地ヨリシテ速カニ我要求ヲ容レラレタシト勸告シ南支鉄道ニ関シテハ從來ノ成行ヲ叙述シテ其ノ同意ヲ求メ尚進シテ本交渉ノ消息ニシテ万一外間ニ洩ルルカ如キコトコレアリ又支那政府ニ於テ列國ノ意嚮ヲ懸念シ窃カニ第三國ニ計ルカ如キコトアリテハ忽チ内外ノ物議重大ナル事態ヲ醸成シ容易ナラサル煩累ヲ国交ニ

ルコト

- 第三 安奉鉄道ハ一切ノ關係ニ於テ南滿洲鉄道ニ準スルコト
 - 第四 日本ノ援助ニヨリ南滿洲及東部内蒙古ノ軍政及一般内政ヲ漸次改善スルコト
 - 第五 南滿洲及東部内蒙古ノ地域内日本国臣民ノ居住及營業ノ自由ヲ認メ且之レカ為メ必要ナル一切ノ便宜ヲ与フルコト
 - 第六 日本国ヨリ借款ヲ起シ九江武昌間及南昌衢州杭州間ノ鉄道ヲ建設スルコト
- 將來南昌撫州光沢福州廈門間及福州三都澳間ノ鉄道并ニ前記南昌廈門線ト南昌杭州線等ヲ聯絡スル鉄道ヲ建設セントスル場合ニハ必ス先ツ日本国ニ協議スルコト
- (註 第四及五ニ付テハ支那側ノ態度如何ニヨリ結局多少讓歩ヲナスコト)

(別電二)

八月二十六日在中国日置公使發加藤外務大臣宛電報

中国ニ対スル我交換条件ニ関スル件

別電第六一七号

交換条件

- 第一 膠州湾租借地占領ノ上ハ追テ之ヲ支那ニ還附スルコト
 - 第二 日本国ニ在住スル主ナル革命黨員ハ直ニ之ヲ国外ニ立去ラシメ且再ビ帰来セサル様取計フコト
 - 支那ニ於ケル日本居留地其他日本国権下ニ在ル地域ニ於テモ右同様取計フコト
 - 第三 支那政府ニ対スル革命的性質ヲ有スル一切ノ企画ニ関シ秘密ナル取締リヲ行フコト
 - 第四 滿蒙開放ニ附随シテ發生スヘキ日支人間ノ交渉按件ハ親切公平ニ処理シ支那政府ニ煩累ヲ及ボサザル様努ムルコト
- (註 第一ニ於テハ貴電第三四八号御訓令ノ次第アルモ既ニ対独通牒中ニ言明シ之ヲ公表シタル關係アルニ付素ヨリ之ヲ後日ノ問題トシ此際支那政府ヲ満足セシムル目的ヲ以テ単ニ形式的声明ヲ与ヘ置クコトハ別段差支之ナキ義ト思料ス)

総長ト協議ノ上取締ヲ為シ居ル旨申居リタル由ナルモ要スルニ本件ハ単ニ新聞紙上ノ反對論調ノミニ止ラサルニ至レリ又袁世凱ガ坂西ニ内話セル所ニ依ルモ支那政府側ハ漸次歐洲戦局ニ対シ独逸国ノ勝利ヲ信スル傾向ヲ有シ来レルモノ、如クナル上一二ノ御用新聞ハ青島攻撃ニ関シテモ陥落容易ナラサルヲ信スト共ニ其後ノ処方ハ必ズシモ戦勝国ノミノ意思ニ依ラス米國ヲ始メ列国会議ニ依リ解決サルヘキモノナルコトヲ信シ且之ヲ希望スルモノ、如ク同時ニ之ニ対スル日本側終局ノ成功ト其決心如何ヲ疑ヒ始メタルカ如キ語氣ヲ洩ラス者アルニ至レリ路透電報ノ伝ヘタル我政府最近ノ声明ニ付テハ未タ著シク反響ヲ認ムルニ至ラス

(附記一)

八月二十一日附大阪朝日新聞掲載記事

日支新議定書

日置駐支公使は去る十四日出発の際日支新議定書を帶同し北京に向ひ赴任の途次寺内総督関東都督に会見更に協議する所あり愈々公使は二十日北京に着任したれば袁總統に信任状を捧呈の後支那官憲との間に新議定書の調印交換をなす筈にて目下頗る秘密に附せられつゝあるも今右議定書の

五六三 八月二十九日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

「日支新議定書」ニ関スル日本新聞ノ論説ニ対

スル中国側ノ反日氣運ト親独傾向ニ付報告ノ件

附記一 八月二十一日附大阪朝日新聞掲載日支新議定書ニ関スル記事

二 八月二十二日附大阪毎日新聞掲載ノ同右ニ

関スル記事(一)(二)

三 对支聯合会ニ関スル情報(一)(二)

第六二六号

当地漢字新聞ハ前電以来引続キ日支新議定書問題ヲ論議シ当館及外交部側ノ為シタル声明ニ基キ事實無根ノ旨打消ヲナシ居レル一面ニ於テハ該記事ヲ以テ我民間ノ輿論ヲ代表スルモノトシ盛ンニ挑発的文字ヲ列ネ居レルカ上二十二日ノ大阪毎日新聞ノ論説ハ総テノ新聞ニ訳載セラレ新ニ我ニ対スル反感ヲ激増スルノ材料ニ供セラレ居リ而シテ二十九日参政院ハ本件ニ関シ特ニ秘密會議ヲ開キ其要求ニ依リ出席シタル曹次長ハ全然無根ナル旨答弁ニ及ヒタル由ナルカ市中ニ於テモ中華救亡團及福建同郷会等ノ名義ヲ以テ排日的集會ヲ開クニ付テノ激文ヲ配賦セルモノアリ之ニ関シテハ高尾ヲシテ曹汝霖ノ注意ヲ促サシメタルニ現ニ内務

内容は左の如くなりト

日支新議定書内容

大日本帝國支那共和国兩國間に恒久不易の親交を保持し東洋平和を確立するため左の條款を協定す

- 一、大日本帝國政府は支那共和国の独立及領土保全を確實ニ保障する事
- 一、第三国の侵害により支那共和国の安寧或は領土保全に危険ある場合は大日本帝國政府は速に臨機必要の処置を執るべき事
- 一、支那共和国政府は右大日本帝國の行動を妨ぐることなく相當の便宜を与ふる事
- 一、大日本帝國政府は前項の目的を達する為軍略上必要の地点を臨機取用することを得る事
- 一、兩國政府は相互の承認を経ずして本協定の趣旨に違反すべき協約を第三国との間に締結することを得ざる事
- 一、本協約に關聯する未悉の細目は兩國代表者の間に臨機協定する事

(附記二)

八月二十二日附大阪毎日新聞掲載記事(一)(二)

(一)

日支間新協定

近く議定書調印されん

帝国政府の最後通牒に対し独逸政府が我要求を応諾せば可なるも万一之れを拒絶するか若しくは回答を為さざるに於ては直に最後の行動を執らざるべからず是に於て帝国政府は支那共和国政府に対し是非共協定し置かざるべからざる重大案件あり

加藤外相は大隈首相及び岡陸相、八代海相と熟議の上閣議の決定を経て支那公使陸宗輿氏と数回会見して我政府の内意を通告したるに陸公使は我提議を妥当なりとして本国政府に電照する処あり又一方大隈首相及び加藤外相は長き辺に内奏の上日置公使をして新議定書案を携へて北京に赴任せしめ公使は其途次寺内朝鮮総督及び福島関東都督に会见協議する処あり愈二十日北京に着任したれば直に袁大總統に信任状捧呈の上支那官憲との間に協定を了すべしといふ

(二)

日支協約如何

日置公使も亦好運の人

との言をなし置けり。爾来一週間に満つる僅に一日半を余すのみ、独逸は未だ我の要求に応ぜんとするの態度を示さず、交戦は終に免るべからざるの明白となりしのみならず、支那の対日態度は、今や我と争ふの意なきを明かにせるのみならず、頗る親目的なりと雖も、其言動の容易に信ぜべからざるのみならず、仮令信ずべしとするも、十分なる確約あるにあらずんば、日本の行動は不測の障碍を蒙るの虞あり、況んや山東地方不穩の形勢あるをや。而して日置公使既に任に北京に着せるあり、直に必要な談判に着手し、独逸の回答すべき最後の日たる廿三日の期限前に之を協定するの手續中と察せらる。従つて此場合、支那にして独逸の味方たらず、日本に頼りて其中立を維持し、又平和と秩序とを確保せんとすれば、之について必要なる日支協約の成立すべきは、当然の事なるべし。日本が如何なる協約を結ばんとするかは、吾輩の知る所にあらずと雖も、幾分か之に似たる前例を手近に求むれば、第一は日清戦役当時(二十七年八月二十日)大島駐韓公使と金韓国外相との間に結びたる「日韓暫定合同條款」にして、其要領は

七月廿三日漢城において兩國兵の偶爾衝突を起したる事

吾輩曩に「帝国の活動開始」を論じ、中

日独の交戦は終に避くべからざるのみならず、之が為に我は支那の中立地帯を侵さざるを得ざるの必要に会すべく、従つて中立地帯を敲守せんとする支那の陸海軍とも衝突し、結局独支聯合の陸海軍と戦はざる可らざるに至るやも知る可らず

との言をなし、又

我の日英同盟の義務履行は、独逸に対する目的を達し其処分を了りたるのみにて済むものにあらず。日本は支那における英国の利権を擁護し併せて支那の平和を維持する任務をも有せり。故に右対独逸分の手段執行の途中において支那の陸海軍と衝突し日独戦争の変じて日支戦争となるの場合、若くは斯る機会を利用して支那各地に叛乱の起るが如きことありて袁政府之を鎮定するの力なきこと明白なる場合ありとせんか、日本帝国は全力を尽して之を討平鎮定し支那全土の和平と秩序とを回復するの責に任せざるべからざるなり。従つて日本帝国は支那に對して事前に禍乱を防止するに必要な処置を執り、以て膠州灣処分より、若くは内地の叛乱より日支兩國の大難を結ぶが如き事なきを図るべし云々

件を治め並に将来朝鮮国の自由独立を鞏固にし且彼我の貿易を奨励し以て益兩國の親密を図らんがため茲に合同條款を暫定す、との冒頭を以て

(一)内政改革(二)京釜、京仁間鉄道布設(三)京釜、京仁間軍用電線存留(四)全羅道の一港開放(五)衝突事件を不問に附する事(六)韓国の独立自主を鞏固にするについては兩國合同議定すること(七)王宮護衛の日本兵撤退

を約し、右の内永遠に遵守すべきものは後日条約に改むる事とせるにあり。

第二は、同年八月廿六日同当局者の締結せる「日韓同盟条約」三ヶ条にして、

第一条 此盟約は清兵を朝鮮国の境外に撤退せしめ朝鮮国の独立自主を鞏固にし日韓兩國の利益を増進するを以て目的とす。第二条 (前略)朝鮮国は日兵の進退及其糧食準備のため及ぶだけ便宜を与ふべし。第三条 此の盟約は清国に對し平和条約の成るを待つて廢棄すべしといふにあり。

第三は、日露戦争当時(三十七年二月廿三日)林駐韓公使と李韓国外相と締結したる「日韓議定書」六ヶ条是なり。

其内容は

(一)日韓恒久不易の親交、東洋の平和維持、韓国は日本を確信し施政改善の忠言を容るゝ事(二)韓皇室の安全康寧保障(三)韓国の独立、領土保全の保障(四)第三国の侵害により若くは内乱のため大韓帝国の皇室の安寧或は領土の保全に危険ある場合は大日本帝国政府は速に臨時応変の措置をとるべし、而して大韓帝国政府は右大日本帝国政府の行動を容易ならしむるため十分便宜を与ふる事、大日本帝国政府は前項の目的を達するため軍略上必要の地点を臨機取用することを得る事(五)両国政府は相互の承認を経ずして後來本協定の主意に違反すべき協約を第三国との間に訂立することを得ざる事(六)本協約に関する未悉の細条は大日本帝国代表と臨時協定する事

といふにあり。更に三十七年八月廿二日の「日韓協約」において財政、外交の両権を我に収め、韓国保護の実を完了するの端を啓きたるは、世人の尚記憶に新なる所なり。日支両国の関係は、南滿洲以外、当年の日韓関係と同視すべからざるものあるや勿論なりと雖も、支那が完全なる中立を維持する能はず、又独逸の作戦根拠地を掃蕩する能はず、寧ろ其侵害する所となれるに顧みれば、日清戦争当

是吾輩の信じて疑ふを欲せざる所なり。

(附 記三)

对支聯合会ニ関スル情報 (一) (二)

(一)

乙秘第一六三〇号

八月二十五日

对支聯合会ニ関スル件

昨日ノ对支聯合会評議員会ニ於テ内田良平、中西正樹、小川運平、葛生修吉等ハ別記調査委員会ノ調査ニ係ル对支根本政策ニ関スル意見書ヲ当局者ニ提出シ而シテ別ニ訪問委員ヲ選ミテ其逐条説明ヲ為サシムルコトヲ主張シタリシカ柴四朗、大竹貫一、中野常太郎等ハ其必要ナシト反对シ多数ノ者亦タ之ニ賛シタリシヲ以テ遂ニ否決サレ不日再ヒ对支根本政策問題ニ付テハ調査会ヲ開キ慎重研究スルコト、シ散会シタリ

(別 紙)

对支根本政策

一、標 準

政治上支那指導ノ地歩ヲ占ムルコト

七 对中国諸問題解決ノ為ノ交渉一件 五六三

時に於ける韓国、日露戦争当時における韓国及清国、歐洲における白、蘭、瑞の諸国と相似たるものなくんばならず。其関係や実に複雑なりといはざるべからず。我が帝国政府は日置公使をして如何なる協約を結ばしめつゝあるやは知らずと雖も、必ずや是等の複雑なる関係に顧みて、支那をして日本に対しても又独逸以外の列国に対しても適切にして都合よき協約の締結に同意せしむるならん。而して此協約の含む所の条項には、眼前の必要に應ずるを目的とする暫定的性質のものもあるべく、又後日更に条約を以て更新すると否とを問はず、永遠に継続すべき性質のものもあるべきなり。其内、滿洲の警察権を我に委任せしむるが如き事あるべきは、近日の日支兵の鄭家屯方面において衝突したる事実にも察知せらるゝ所なるが、其他総ての条項に対して、支那は日本に信頼するの誠意を發揮し、所謂同種提携の歩武を大に進むるの實を示すならん。我が日置公使の手腕、果して帝国の希望を満たすに足るや否やを疑ふ者あらんも、日置氏も亦好運の人、今や遇然順風に帆を揚ぐるが如き位置に立つ、凡庸と雖も、猶其成功を十二分に奏し得べきなり。日置氏恐らく誤ることなかるべく、必ずや日支両国及び列国の満足を買ふものあらん。

二、刻下解決スベキ要領

- 一、滿蒙問題解決ノ事
- 二、膠州灣還付ニ際シ充分ナル代償ヲ取得スル事
- 三、山東ヲ中心トセル独逸ノ利権一切ヲ継承取得スル事
- 四、經濟上特殊ノ約束ヲ得ヘキ事

理 由

帝国ガ支那保全東洋平和ノ確保ニ銳意スル一日ノ故ニアラス然ルニ支那ハ其国力ノ微弱ナルト其当局者ノ無定見ナル為動モスレハ領土ノ保全ヲ侵害セラレ延テ東洋ノ禍乱ヲ捲起スルコト一再ニ止マラス曩ニハ義和團事件アリ或ハ滿洲ヲ侵サレテ日露ノ戦争ヲ惹起シ或ハ膠州灣ヲ独逸ニ奪ハレ今ヤ又帝国ノ兵ヲ勞ハシテ之ヲ還付セシメサルベカラサルニ至レリ而シテ支那ノ現状ハ革命ノ後ヲ承ケテ列国ノ關係益々複雑ニ陥リ財政ノ窮乏其極ニ達シテ人必離反シ禍乱朝夕ヲ測ル可カラサルモノアラントス

此時ニ方リ帝国カ東洋平和ノ目的ヲ以テ膠州灣ヲ支那ニ還付セシムルモ支那ノ国状現今ノ如クンハ大局ニ於テ何等益スル所ヲ見サルノミナラス他日再ヒ他国ノ侵略ニ遭ヒ平和攪乱ノ端ヲ啓クナキヲ保セス之レ帝国ノ到底忍ブ能ハサル所ニシテ從來支那ニ關係ヲ有スル列国亦タ之ニ堪フル能ハ

サルベキ所ナルヲ信ス

往年帝國ガ日露ノ大戦ヲ敢テシ幾多ノ国財ヲ糜シ幾多国民ノ鮮血ヲ濺キ露国ヲ驅逐シテ満洲ヲ支那ニ還付スルヤ其結果ハ東洋平和ノ確保ニ於テ何等効益ナカリシノミナラス動モスレハ支那人ヲシテ猜疑反抗ノ状ヲ呈セシムルニ至レリ是レ他ナシ対支政策上根本的要諦ヲ得サルノ致ス処ニ外ナラサルナリ

独逸ハ世界ノ強国ナリ今ヤ帝國ハ膠州灣還付問題ノ為ニ之ト難ヲ構ヘ恨ヲ将来ニ遺シ不測ノ障碍ヲ求ムルモ尚ホ辭セサル所以ノモノハ其目的亦東洋平和ノ為ニ外ナラスト雖モ之ヲ満洲還付ノ際ニ於ケルト同様ノ手段ヲ以テ漫然支那ニ還付センカ満洲還付ト同シク平和確保ノ大局ニ於テハ何等益スル所ヲ見ル能ハサルコト是レ吾人ノ憂慮措ク能ハサル所トス

要スルニ帝國ガ東洋平和ノ確保ニ任シ国防ノ安全ヲ期セシト欲セハ先ツ支那ニ対シテ政治的指導ノ地位ニ立チ之ヲシテ内外ノ政治ヲ整理セシメ外、列國ノ侵略ヲ免レ内國內ノ安康ヲ図ルノ他アルヘカラス是即対支政策上ノ根本義タルモノニシテ想フニ列國モ亦東洋平和商權ノ安固ノ為ニ喜テ之ニ信頼スヘク支那ノ国土ニ依テ以テ保全セシムルヲ得ヘ

ヲ製造セシムル事

(一) 滿蒙ニ対スル行政ハ自治制タラシムル事

(二) 揚子江沿岸ニ於テ鉄道敷設権ヲ日本ニ与ヘシムル事

(三) 福建省ヲ事実上日本ノ勢力範圍トシ外國ヨリノ借款其他利権ノ割ヲ許サシメサル事

ノ六大案件ナリトノ風説アリテ兩者ノ主張大体ニ於テ略ホ同一ナルヤノ感アルヨリ陸軍ノ要部ト対支聯合会提案者トノ間何等ノ聯絡アルニアラズヤト揣摩スルモノ頻リナリト云フ

註 対支根本政策(前掲(一))ノ別紙ト同文ナリ

五六四 八月二十九日 加藤外務大臣ヨリ 在中国日置公使宛(電報)

中国問題解決ノ為ノ交渉開始ハ時機尚早ニ付追テ指示スル旨回訓ノ件

第三八六号

貴電第六一五号乃至第六一七号閱悉御意見ノ次第ハ大体ニ於テ至極御尤モナルモ膠州灣攻撃モ未ダ進捗セズ歐洲ノ戦局亦十分前途ノ見据付カス且支那ノ人心モ我ニ対シテ尚多

七 对中国諸問題解決ノ為ノ交渉一件 五六四 五六五

キナリ

而シテ之カ実行ハ膠州灣還付ノ機会ヲ以テ之ヲ支那ニ要求スルコト最モ時機ヲ得タルヘキヲ信スト雖モ折衝時機ノ宜シキニ応スルノ必要アルヘキニヨリ対支根本政策ノ標準ヲ此ニ置キ機ニ臨ミ勢ニ応シテ其目的ノ到達ヲ期スルコト、シ先ツ当面ノ問題トシテ上記ノ諸件ヲ解決シ以テ根本問題解決ノ地歩ヲ占メンコトヲ主張スルモノナリ 以上

(一)

乙秘第一六五七号

八月廿七日

陸軍ノ対支政策ト対支聯合会

去ル廿五日対支聯合会ノ評議員会ニ於テ討議ノ末否決セラレタル内田良平、中西正樹等一派ノ提案タル対支根本政策ハ別紙ノ通りナルガ又一面ニ陸軍ノ要部ニ於テ今回ノ時局ヲ機トシ遂行セントスル対支政策ハ

(一) 支那ノ大陸ニ関スル外交ハ細大トナク予メ日本ニ相談セシムル事

(二) 支那ノ軍事ハ日本ノ將校ヲ傭購シテ軍隊教育ヲ施シ或ル特別ナル場合ニハ其將校ヲシテ軍隊ヲ指揮セシムル事

(三) 日支軍隊ノ共同動作ヲ容易ナラシムル為メ共通ノ兵器

大ノ不安ヲ表白シツツアル際ナルニ付今直チニ本件ヲ支那政府ニ提出スルハ時機稍早キニ過グト認ムルヲ以テ今暫ク形勢ノ推移ヲ看望シ十分ノ見込付キタル上ニテ之ヲ提出スルコトト致度其時機ニ付テハ追テ当方ヨリモ申進スベキガ貴方ニ於テモ篤ト御注意ノ上電稟アリタシ尚愈右提出ノ場合ニハ要求条件及交換条件雙方ニ対シ当方意見ノ次第モアルニ付御含置アリタシ

五六五 九月七日 在中国日置公使ヨリ 加藤外務大臣宛(電報)

袁世凱ノ親日的訓示ニ付報告ノ件

第六六五号

九日六日梁士詒及曹汝霖カ本官ニ語ル処ニ依レハ袁大總統ハ九月五日参政院参政並ニ各部総長全部ヲ招集シ時局ニ関スル一場ノ訓示ヲナシタルカ其一節ニ支那ハ日本国ト同文同種ノ陸誼ヲ有スル以外ニ利害關係ニ於テモ亦全然其軌ヲ同フス然ルニ兩國間動モスレハ感情ノ行違ヨリ互ニ猜疑反目ノ風潮ヲ来スコトアルハ大局ノ為甚タ憂慮ニ堪ヘサル所

ナリ支那ハ飽迄同一人種タル日本国ト提携シ以テ異人種ノ侵略ヲ防カサルヘカラスト説キ次テ日本国ノ对支政策ニ関シテハ毫無疑フ余地ナシトシテ屢次我方ヨリ言明シタル領土の野心ナキ旨反乱党取締ノ意嚮等ヲ説明シタリトノ趣ナリ

五六六 九月二日 在天津松平総領事ヨリ
加藤外務大臣宛

大阪朝日新聞掲載「日支新議定書」ニ関シ中国

人ノ反対行動ニ付報告ノ件

附屬書 反対運動ノ概文

機密第六三号 (九月九日接受)

大正三年九月二日

在天津

総領事 松平恒雄(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

日支新議定書ナルモノ客月二十一日ノ大阪朝日新聞ニ登載セラレ大ニ支那人間ノ感情ヲ害シタル如ク北京ニ於テハ一味ノ反対者ハ反対運動ノ為メ別紙ノ如キ激文ヲ散布シ中華民國救亡団ノ名目ノ下ニ客月三十日集会ヲ開キ右反対ノ協

右御参考迄此段及御報告候 敬具

本信写送付先 日置公使

(附屬書)
別紙

八月二十一日大阪朝日新聞登載日本欲乘歐州戰爭之際隨其吞併中國野心先以保障中國爲詞彼之所謂保障者即我國受其保護爲其屬國也

既爲日本屬國即我無國無國之民則種々慘辱不堪設想朝鮮安南印度南非洲亡國慘史盡人皆知設不幸事成其實我國若以武力對待難佔優勝我同胞力量既不足生死總可自由爲國而死即死猶生生爲亡國奴雖生不如死况慘辱之下難以爲生乎同一死也與其苟延喘受人魚肉何如決然一死爲最后之報酬尚不失爲中國男兒即相見先烈於九泉之下亦可以告無憾矣願我同胞急起直追一息尚存萬不容外人欺侮我也良知(二字)當贊同焉茲擬組織斯團凡確具有敢死熱腸者請簽名決死提倡人臨書瀝淚不勝待命之至

本團定名 中華國民救亡團

本團唯一宗旨 設日人實行其野心本團同人願以死對待本團純淨國民爲國熱發起毫無牽涉國際政治問題特聲明

凡有畏縮與本團宗旨不贊同者請勿簽名

議ヲ爲サントシタル処支那官憲ニ於テ嚴重ノ取締ヲ爲シ極力其会合ヲ防止シ幸ニ何等事無キヲ得タル由ニ有之候処右等過激派ノ一味ハ北京ニ於テ圧迫ヲ受ケタル結果其余党カ窃カニ当地方ニ入込マントスル様子アル旨内報ニ接シタルヲ以テ特ニ注意シ居リタル処昨今当地方ニ於テモ同種類ノ印刷物ヲ一部ノ支那人間ニ配布シツツアル由聞込ミタルヲ以テ直ニ当館員ヲシテ天津警察厅长楊以徳ニ面会ノ上右ニ対スル措置方ニ関シ注意ヲ促シ度ト存候処目下同厅长病氣就幕中ニテ館員ノ面会叶ハサルニ付今二日同厅长顧問原田俊三郎ヲシテ楊ニ面会ノ上本官ノ伝言トシテ前記ノ事実ヲ指摘シ此ノ如キ行為ハ奮ニ徒ラニ人心ヲ動揺セシムルノミナラズ延テ両国々交ニモ妨害ヲ来スベキニ付予メ右予防方ニ関シ嚴重ニ取締アリタキ旨申入レタル 処同厅长ニ於テモ本件ハ内々已ニ耳ニシ居タル由ニテ今後共右ニ関シテハ充分ノ注意ヲ払ヒ若シ右様ノ挙動アルモノニ対シテハ嚴重ニ取締ルヘキ旨ヲ答ヘ尙当地新聞紙ヲシテ前頭日支新議定書ナルモノハ事実ニ非サルコト並ニ謠言ヲ信ジ輕率妄動セザル様一般ニ周知セシムベキ旨申述ベタル由ニ有之候尙今日迄ノ処右日支議定書ナルモノニ関シテハ当地新聞紙ハ極メテ冷靜ノ態度ヲ持シ居候

陳慎藩 劉宗益 林如瀾 高視青 劉連清
劉肖款 林盡臣 嚴伯勛 高又堪 陳洵邁
嚴家井 鄭獨造 李砥中 劉文即 蔣安莊
周爲楨 趙崇如 林如鑾 楊夢照 嚴以禮

本月三十日(即星期)假石大人胡同門牌五十八号一和行會議凡贊同者請准早晨九句鐘齋集該處簽名并商一切

(右和訳文)

八月二十一日ノ大阪朝日新聞ハ日本カ歐洲戰爭ノ際ニ乗シ其支那併吞ノ野心ニ依テ先ツ支那ノ保障ヲ以テ詞トナサント欲スルコトヲ記載セリ彼ノ所謂保障ナルモノハ即チ我ニカ其保護ヲ受テ其属国トナルナリ既ニ日本ノ属国トナレハ即チ我ハ国ナシ国ナキノ民ハ則チ種々ナル慘辱ハ設想ニ堪ヘス朝鮮安南印度南非洲ノ亡國慘史ハ世人皆ナ之ヲ知レリ若シ不幸ニシテ事實トナリ我國武力ヲ以テ之ニ対スレハ優勝ヲ占メ難シ我同胞ノ力量既ニ足ラサレハ生死ハ総テ自由ナルヘシ国ノ為メニ死スレハ即チ死スルモ猶ホ生ルカ如シ生キテ亡國奴トナルハ生ルト雖モ死ニ如カス況ヤ慘辱ノ下生ヲナシ難キオヤ死スルモ同キナリ其苟モ延喘シテ人ニ魚肉ニセラレンヨリ何ソ決然トシテ一死ソ最後ノ報酬ヲナサ

ハ尚ホ支那男児タルヲ失ハサルニ如カンヤ即チ九泉ノ下ニ於テ先烈ニ相見ヘハ亦タ之ニ告テ憾ナカルヘシ願クハ我同胞急起直進セヨ一息尚ホ存セハ決シテ外人ノ我ニ欺侮スルヲ容サルナリ同胞ノ賛同スヘキコトヲ明知シ茲ニ斯団ヲ組織セント欲ス凡テ確ニ敢死ノ熱腸ヲ具有スルモノハ署名ヲ請フ決死提唱者書ヲ臨ミ涙ヲ灑キ待命ノ至ニ勝ヘス本団ハ中華民國救亡団ト定名ス

本団唯一ノ目的 若シ日本人カ其野心ヲ実行セハ本団員ハ死ヲ以テ之ニ對抗センコトヲ願フ本団ハ純淨ナル國民ヲ國熱ノ為メニ発起スルモノナレハ毫モ國際政治問題ニ干渉セズ特ニ之ヲ言明ス

凡ソ畏縮シテ本団ノ目的ヲ賛同セサルモノハ請フ署名スル勿レ

二十名ノ氏名ハ之ヲ略ス(原文ヲ看ルヘシ)

本月三十日右大人胡同門札五十八号ヲ借テ會議ヲ行フニ付キ賛同者ハ早朝九時ニ該処ニ齋集シテ署名シ並ニ一切ノ相談アラントヲ請フ



日本ハ全ク東亜ノ平和ヲ目的トシ支那侵略ノ陰謀ナキニヨル若シ朝日新聞ノ伝フルカ如キコトアラムカ邦交ヲ如何ニセム吾人ハ大隈伯ノ偉論名言ヲ欽服スルモノナリ該新聞記事ノ如キ蓋シ少數野心家ノ陰謀ニ過キサル可ク賢明ナル日本当局者ハ如斯謬説ニヨリ其方針ヲ変スルモノニ非ル可シ吾人カ極メテ誠懇ノ言ヲ以テ我カ最親愛ノ友邦ニ告ケムト欲スルハ日本政府始終ヨク支那ノ独立ヲ尊重シ野心家ノ陰謀ヲ防止シ東亜ノ平和ヲ維持スルノ事ナリ若シ日本ニシテ人ノ不備ニ乗シ不名誉ノ行為ヲ為サハ我國四億人民恐クハ俯首下心惟命是レ聽ク能ハサル可シ困獸猶闘フ何ソ況ンヤ四億ノ人民ヲヤ

ト云ヒ同日ノ國民公報モ亦タ「我ノ日本ニ対スル心理」ト題シ

一言ニシテ之ヲ云ヘハ吾人ノ日本ニ希望スル所ハ其輿論及外交上我カ國家ノ独立自尊心ヲ損スルナキニアリ近ク大阪朝日新聞ハ日置公使カ我カ支那ト議定書ヲ議スルノ使命ヲ帯ヘリト伝フ而シテ其大旨ハ明治三十七年二月二十三日ノ日韓議定書ニ則ルモノナリト云フ吾人ハ寧ロ瓦解シテ亡ヒ車裂シテ死スルモ安ソ此ノ亡國ノ事ヲ見ルヲ能クセンヤ吾人ノ得タル消息ニヨレハ之レ一種ノ流

九月八日 在中国日置公使ヨリ加藤外務大臣宛

「日支議定書」問題ニ関スル中国ノ新聞論調等報告ノ件

公第三一一号

(九月十七日接受)

大正三年九月八日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

歐洲戰爭勃発以來北京ニ於ケル支那新聞紙カ我國ニ対シ概シテ穩健ナル態度ニ出テタルニ偶々大阪朝日新聞ハ八月廿一日ノ紙上日支新議定書ニ付捏造の記事ヲ掲載シ大阪毎日新聞モ八月二十二日ノ紙上日支協約如何ト題スル社説ヲ掲ケタル為在北京ノ漢字新聞ノ論調ニ著敷変態ヲ来セリ今重ナル新聞ノ論調大要左ニ訳出ス

八月廿一日ノ大阪朝日新聞ノ北京ニ郵達セル翌日即チ八月二十六日ノ北京日報カ「日支間ニ將ニ発現セントスル大交渉」ト題シ朝日記事ヲ訳載セル以來民視報ハ二十七八兩日ニ涉リ「大阪朝日新聞ノ謬説ヲ駁ス」ト題シ

日本此次ノ態度ニ対シ吾人ノ深ク信シテ疑ハサル所以ハ

言ナリト云フモ然モ駭ク可ク哀ム可キ流言ニ非スヤト云ヘリ其他同日ノ京津事報ハ「朝日新聞ノ失辭」ト題シ之レ少數野心家ノ夢囈ニシテ決シテ一般ノ心理ヲ代表スルモノニ非ス日置公使ハ外交ニ長シ決シテ邦交ヲ割裂シ世界ノ非笑ヲ貽スカ如キコトヲ肯テセサルモノタルヲ信スルモノ也

ト云ヒ同日ノ民憲時報モ亦タ「友邦報紙ニ対スル疑念」ト題シ日支ノ惡感ヲ挑発シテ世界各国ノ疑義ヲ啓クモノナリト云ヘリ而シテ八月廿六日ノ紙上率先シテ朝日ノ記事ヲ訳載シタル北京日報ハ翌廿七日ノ紙上責任アル当局者ノ説ニヨレハ朝日記事ノ如キハ全然無根ナリトテ更正ノ記載ヲ為シタルニ不拘廿八日ノ紙上「八月廿二日ノ大阪毎日新聞ヲ節訳ス」ト題シテ毎日新聞ノ論旨ヲ訳載シ其他大國民日報、國権報、京津時報、黃鐘日報、大自由報ノ如キモ或ハ「願クハ吾國人夫レ速カニ醒メヨ」トカ或ハ「日支協約ノ謠伝」坏ト題シテ而カモ同文ノ訳載ヲ為セリ又々同日ノ亞細亞日報ハ「日本新聞ノ暴論」ト題シ朝日新聞ノ記事ヲ攻撃シ

昨日外交部内ノ人之ヲ日置公使ニ詢ヘルニ此種ノ風説ハ新聞ノ謠言ナリト言ヘル由也則チ日本新聞ノ放肆ニシ

テ我国ヲ輕侮スルノ甚シキヲ知ルニ足ルヘシ国ヲ愛スルノ新聞記者タルモノ少シク其詞鋒ニ檢束ヲ加ヘヨ

ト云ヒ其他民憲日報ハ「我ノ日支交際觀」ト題シ又天津時報ハ「痛史当軸ニ警告ス」ト題シ黃鐘日報ハ「朝日新聞ノ謬誤驚心痛目ノ流言」ト題シ

朝日新聞ノ論調ノ如キハ吾人ハ其政府ノ真意ニアラサルコトハ之ヲ知ルモ然カモ彼國輿論ノ我国ヲ侮辱スル甚キヲ見ルニ足ルヘク乃チ朝鮮ニ対スル故事ヲ以テ我ヲ待ツ

モノ也身命ハ毀ツ可ク財産ハ喪フ可キモ吾國民ノ名譽ハ辱ム可カラス吾人ハ寧ロ東海ヲ踏シテ死スヘキモ断シテ韓人ノ濱ト為ル能ハサル也

トイヒ又八月二十九日ノ民視報ハ「政府及人民ニ警告」ト題シ

二十一日ノ大阪朝日謬載ノ日支議定書ヲ讀ミ髮豎チ毗裂ケ悲憤膺ヲ填メサルモノハ之ヲ人ト謂フ能ハス今各方面ノ弁明ニヨリ事實無根ナルコト明瞭トナリタルモ吾人ノ受ケタル奇恥大辱ハ西江ノ水ヲ尽スモ洗フ能ハス朝日新聞カ邦交ヲ顧ミス敢テ我国ヲ侮辱スル所以ハ我国政府及ヒ人民カ外交上ノ抵抗力ナキヲ見虚声恫嚇以テ我国ノ態度如何ヲ探測セムトスルニ在ルモノ也

洩ラシ我國民ノ心理如何ヲ探測セムトスルナルコトヲ知ルニ足ルヘシ

ト述ヘ二十九日ノ黃鐘日報ハ世事雜感ト題スル社論欄ニ於テ殘刻不仁人ノ隙ニ乘シ以テ自ラ逞フスルモノハ後世ノ毒ヲ種ヘ亡國滅種ノ導火線タラン

トテ暗ニ日本ノ行動ヲ非議シ其要要雜報欄ニハ「國民ノ朝日新聞所載ノ議訂書ニ対スル憤詞」ト題シ旅京福建同郷会ノ名ヲ以テ散布セル公啓文ヲ掲載セリ然ニ一面二十九本ノ各漢字新聞ニ帝國政府ノ態度ニ関スル長文ノ東京発「ロイテル」電報訳載セラレタル為輿論稍々緩和シ廿九日ノ亞細亞日報ノ如キハ

日本カ支那ノ独立ヲ妨害セス且ツ支那ノ領土ヲ侵略セストハ必竟スルニ外交上ノ慣用語ニ過キス又英米ト連合シテ平和的經營ヲ為スヘシト云ヒ青島問題ハ最後通牒ノ趣旨ニ反セスト云フモ吾人ハ日本ノ態度支那ニ利益アリトハ信セス唯タ其用意頗ル善良ナルヲ見ル願クハ其言ノ誣ナラスシテ能ク之ヲ事實ニ示サムコトヲ

ト論評スルニ至レリ左レド八月三十日ノ北京日報ノ如キ「日本浪人ニ警告ス」ト題シ尚左ノ如ク論述セリ

日支議定書ノ説アリシ以來我国ノ輿論ハ沈痛憤激セリ日

ト論シ同日ノ国民公報モ亦タ「日本ノ真意ハ此ニ在ル聊」ト題シ

近日新聞界ニ伝称セラル、日支議定書ナルモノハ明治三十七年二月廿三日ノ日韓議定書ト絲毫ノ差異ナク吾人神州大地上ニ生息スルモノ之ヲ讀ミテ痛心セサルナク吾國海通以來地球上各人ヨリ屈辱の擬議ヲ受クル之ヲ以テ嚙天トシ且其最甚シキモノトス吾人ハ必スシモ國ノ亡ヒサルヲ求メス但シ吾人ハ魚肉トナリテ亡ヒ瓦解シテ亡ヒシヨリ寧ロ糜爛シテ亡ヒ轟々烈々トシテ亡ハント欲ス当局責任者ノ声明ニヨレハ此記説ハ訛伝タリト云フ仮リニ訛伝タリトスルモ已ニ指目擬議我中国ヲ処分セントス吾人ノ屈辱タル已ニ十分ナリ況ンヤ是レ決シテ無根ノ風説ニ非ルニ於テヲヤ

ト云ヒ更ニ廿二日ノ毎日新聞社説ヲ引証シ吾人ハ徒ラニ強權ニ附随シテ生キンヨリハ寧ロ公理ニ殉シテ死セント結論シ同日ノ民報ノ如キモ「東報ノ時局ニ対スル論調」ト題シ

大阪朝日記載ノ日支議定書ハ已ニ北京日報更正ノ通り其事實無根ナラン然レトモ已ニ此記載アルニ見レハ日本國中一部ノ人士中ニハ此種ノ野心ヲ抱藏シ特ニ之ヲ新聞ニ

本ノ当局者ハ其一部浪人ノ言タルニ過キスト云フモ浪人ノ此言ヲ為ス固ト日本ニ利センカ為メナルヘシ去作世界の眼光ヲ以テ觀察セハ其結果ハ嘗ニ日本ノ利トナラスンテ却テ世界ノ平和ヲ擾乱スルニ至ラン彼ノ日英同盟條約、日露協約、日仏協約等ノ各種條約ニ支那ノ独立ト領土保全トヲ規定シタルハ専ラ均勢ノ局ヲ維持セントスルニアルヘシ然ニ日本カ歐洲有事ノ秋ニ乘シ英仏露トノ已結條約ヲ棄テ又タ米國トノ交換文書ヲ無視シ東亞ノ平和ヲ擾乱シテ自由行動ニ出テ独逸ノ長鞭及フナキニ乘シテ之ヲ排斥シ支那ノ基礎未タ固カラサルニ乘シ之ヲ蹂躪セムトスルハ是レ天下ノ不韙ヲ冒シテ天下ノ兵ヲ動スモノ也支那ハ弱ト雖人地未死セス決シテ犬馬奴隸タルニ甘ンスルモノニアラス云々

又同日ノ民視報モ亦「日支協約締結ノ必要ナキヲ論ス」ト題シ

日支議定書ノ持論用意ノ誤險ナルコトハ先キニ詳論シ日本ノ各新聞モ亦之ヲ認メテ謠言トナス記者ノ見ニヨレハ日本ハ大國ヲ以テ自任シ三島傑士亦大國民ノ襟度アリ假令浪人ノ謠言アリトスルモ政府ハ断シテ此下策ニ出テサル可シ但タ我國民カ此輩語ニ惑ヒ群情憤激シテ抑フ可カ

ラス我國ノ国交平等ヲ主トシ理ノ在ル所ハ毫モ左右組セス今ヤ禍乱ニ値ヒ中立ヲ嚴守スルハ平和保全ノ唯一政策ナリ日本ニシテ我ト交親セントセハ其道ヤ多クアリ何ソ必スシモ新約ヲ強訂シテ人ノ疑忌ヲ招クニ及ハンヤ賢明ナル大隈伯ハ決シテ如斯ノ挙ニ出テサルヘシ若シ記者ノ愚慮ニシテ中ラスハ記者ハ唯タ敵ヲ殺シ侮ヲ踏ソテ死スルアル耳

ト云ヒ同日ノ黄鐘日報モ亦タ「誤謬虚誕ノ日支議定書ヲ論ス」ト題シ特別活字ニテ縷々数段ニ涉リ大要左ノ如ク論述セリ

日支議定書ノ事タル日本政府ニ於テハ冒然之ヲ為ササルヘキモ声誉アル輿論機關カ一再之ヲ記載スルニ徴セハ其国内一般ノ浪人ニ此心理ヲ具有スルモノアルコトハ問ハスシテ知ルヘシ夜郎自大虚構妄誕其レ亦思ハサルノミ不幸ニシテ日本カ久遠ノ計ヲ為サスル亡国ノ協約ヲ以テ相迫ラハ吾人ハ寧ロ玉碎スルモ瓦全スルヲ欲セス四億ノ父老昆季血枯レ肉飛シテ亡フモ決シテ人ノ牽制ニ任シ人ノ贅属ト為ツテ亡フ能ハス国ノ亡フハ一也已ニ亡フトセハ誠ニ独帝ノ言フカ如ク最後ノ一人一馬力ヲ殉シテ以テ亡ハハ死ストモ憾ナシ蜂蠶モ毒アリ困獸猶ホ鬪フ最後

朝日新聞所載議定書ノ乖謬ニシテ日本政府ノ必ス茲ニ出テサルコトハ本紙カ日本公使ノ声明ト東報ノ更正ニヨリ之ヲ登載シテ国人ノ疑慮ヲ釈キン所ナリ唯タ全国人カ此刺激ヲ受ケ憤慨ノ心自ラ已ム能ハス日米本社ニ投稿スルモノ一ニシテ足ラス其措詞ノ激烈ナル前記投稿ニ十百陪スルモノアリ左レト本社ハ国際感情ヲ顧慮シ之ヲ掲載セス以テ我國民ノ態度一斑ヲ見ルニ足ルヘシト述ヘタリ

右ハ新聞紙論調ノ大要ナルカ此間中華民国救亡団ト称スル団体起リ激烈ナル印刷物ヲ散布シ但ツ私ニ集会ヲ催シ盛ニ反对運動ヲ企テ又參政院ニ於テモ八月廿九日ノ議事終了後參政王印川ヨリ朝日新聞記事ニ関シ秘密会ヲ要求シ電話ヲ以テ政府当局ノ説明ヲ求メタル為外交次長曹汝霖出席シ其事実無根ナルコトヲ説明シ尚当館ニ於テモ先是順天時報ヲシテ弁明ニ力メシメタリ而シテ本問題ニ関シ支那官憲ニ於テハ勉メテ輿論ノ鎮庄ニ尽力シ京師警察庁ノ如キハ八月卅一日ヲ以テ報界同志会ニ書面ヲ送り朝日新聞記事ノ事實無根ナルハ明白ニシテ人民ノ激昂シテ印刷物ヲ散布シ開会討論スルカ如キハ或ハ累ヲ国交ニ及ホスノ虞ナキニアラス日本ハ我カ親仁ナル善隣ニシテ東亞ノ平和維持ヲ宗旨トスル

ノ計畫アルノミ断シテ協約ノ余地ナシ
大自由報モ亦「余ノ日本新提議書ニ対スル冷眼評」ト題シ所謂日支新議定書ナルモノハ第一日英同盟ノ範圍ヲ逸出ス第二我政府当局ニハ何等ノ議及ナン第三日本カ我國ト唇齒ノ關係アルヲ以テ此不名譽ニシテ実益ナキ挙動ニ出テサルヘシ是ヲ以テ右ハ一種ノ謠言ニシテ弁論ノ価値ナキモ朝日新聞ノ悍然之ヲ記スルハ二人者カ我國ヲ蔑視スルノ念ヨリシテ本國政府ノ威信ヲ害スルヲ顧ミス且吾國人ノ惡感ヲ挑剔シテ其詭計ヲ行フノ機會ヲ俟ツモノナルヘシ

ト云ヒ三十一日ノ民視報ハ「朝日新聞記載新議定書ノ謬ヲ論ス」ト題スル寄稿ヲ掲ケ三度日支議定書ノ荒誕ナル理由ヲ論シ京津時報モ「我國民ノ照妖鏡」ト題シ同文ノ寄稿ヲ掲載シ尚同日ノ「民報」ハ「國民カ東報所登ノ新議定書ニ対スル憤慨」ト題シ二種ノ投稿ヲ掲載セリ一ハ議定書ノ解釈ト題シ兩日前以來市中ニ配付サレタル印刷物ト同一ニシテ朝日所載議定書六項ニ対シ逐項解釈ヲ加ヘ其支那ノ國權ヲ無視スルモノタル理由ヲ説明シタルモノ又タ一ハ議定書ノ糾謬ト云ヒ民報京津時報ヘノ寄稿ト同文也而シテ記者ハ其最後ニ

モノナリ又々新聞ハ輿論ノ先導トナリ疑惑ヲ解釈スルコト其天職ナルヲ以テ報界同志会ハ斯ノ趣旨ヲ体シ各社ニ転達シテ努力スル所アリタキ旨申入タリ右等ノ關係ヨリシテ九日ニ入り新聞ノ論調漸ク鎮靜ニ赴キタリ
以上稍々冗長ニ渉ル嫌ナキニアラサルモ刻下支那官民殊ニ言論界ノ我國ニ対スル態度一斑ヲトスルニ足ルヘクト存シ特ニ及報告候也

五六八 十二月三日 加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛

中国ニ対スル要求提案ニ関シ訓令ノ件

附屬書一 山東問題ノ処分ニ関スル条約案

二 南滿東蒙ニ於ケル日本ノ地位ヲ明確ナラシムル為ノ条約案

三 漢冶萍公司ニ関スル取極案

四 中国ノ領土保全ノ為ノ約定案

五 中国政府ノ顧問トシテ日本人僱傭方勧告其
他ノ件

六 膠州灣租借地遷附ニ関スル件

七 中国側ニ対シ日本ヨリ提供シ得ル事項

八 参考書類(第一)乃至(第五)及(附)

附記一 十二月三日付日置公使ニ対スル訓令案

二 同第二訓令案

公信号外(機密)

帝國政府ニ於テ時局ノ善後ヲ図リ且帝國將來ノ地歩ヲ鞏固ニシテ以テ東洋ノ平和ヲ永遠ニ保持センカ為此際支那政府トノ間ニ大体別紙第一号乃至第四号ノ趣旨ノ条約及取極ヲ締結致度意図ニ有之右ノ内別紙第一号ハ山東問題ノ処分ニ係リ別紙第二号ハ大体南滿洲及東部内蒙古地方ニ於ケル我地位ヲ明確ナラシムルノ趣旨ニ有之畢竟南滿洲及東部内蒙古ニ関シテハ帝國ノ地位モ將又支那ノ地位モ共ニ甚不明確ナル点渺カラサル為從來日支兩國ノ間ニ無用ノ誤解猜疑ヲ生シ延テ兩國ノ国民的感情ニモ多大ノ悪影響ヲ及ホシタルコト少カラサル次第ナルニ付帝國政府ニ於テハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル既成ノ事實ヲ玆ニ明確ナラシムルト共ニ一面此機會ニ於テ帝國政府ニ於テハ所謂滿洲分割等同地方ニ対シ何等領土ノ野心ヲ包蔵セサルノ意志ヲ表白セントスルモノニ有之尤モ南滿洲及東部内蒙古ニ関シテハ先ツ別紙第二号甲案ニヨリ交渉ヲ開始相成度右ハ或ハ支那政府ノ承諾ヲ見ルコト困難ナルカトモ思考セラルルモ成ルヘク右甲案通りノ我希望ヲ貫徹シ得ル様御折衝相成已ムヲ得サルニ及テ別紙第二号乙案ニ拠ラルルコトト致度次ニ別紙第三号漢冶萍問題ニ関シテハ此際主義上ノ取極ヲ約シ置キ詳細ノ

告致度事項ニ有之且支兩國親交ノ増進ヲ図リ其共通利益ヲ擁護センカ為ニハ何レモ緊急ノ案件ニシテ中ニハ既ニ日支兩國間ニ懸案ト成リ居レル項目モ有之次第ニ付之亦成ルヘク我方希望ヲ實現セシムル様精々御尽力相成度又本件交渉ノ支那當局ハ必ラス膠州灣最後ノ処分ニ関スル帝國政府ノ意嚮ヲ承知シタキ旨申出ヅベク候処帝國政府ニ於テハ若シ支那政府ニシテ全然我要求ヲ応諾スルニ於テハ同地還附ノ事ヲ詮議スルモ苦シカラスト思料致居候ニ付右ニ御含相成度尤モ還附実行ノ場合ニハ同地ヲ開放シテ商港トナシ且我專管居留地ヲ設クルコト絶対ニ必要ト被存候間還附ノ詮議ヲ声明セラルルトキハ別紙第六号ノ如キ趣意ニテ御応答相成リ其結果公文ヲ交換スルコト必要ナル場合ニハ請訓ノ上措置セララルコトト御承知相成度此段及訓令候也

(附屬書一)

山東問題ノ処分ニ関スル条約案

第一号

日本國政府及支那國政府ハ偏ニ極東ニ於ケル全局ノ平和ヲ維持シ且兩國ノ間ニ存スル友好善隣ノ關係ヲ益々鞏固ナラシメンコトヲ希望シ玆ニ左ノ條款ヲ締結セリ

点ハ追テ協議決定スルコトト致度尚別紙第三号及第四号ハ必スシモ条約ノ形式ト為スヲ要セス或ハ公文ノ交換等ニヨルモ差支無之ニ付右ニ御承知置相成度候將又別紙第一号及第二号ノ条約及第三号及第四号ノ取極ハ何レモ支那側ニ於テ希望スルニ於テハ当分密約ト致シ置クモ苦シカラサル義ニ付是亦御含置相成度シ

以上各項中別紙第一号ハ時局善後ノ為当然ノ措置ニ屬シ別紙第二号ハ大体既成事實ノ確認ニ止マリ別紙第三号ハ我方ノ漢冶萍公司ニ対スル關係ニ顧ミ同公司將來ノ為最善ノ方図ニ屬スルモノニシテ要スルニ以上三項共何レモ何等格段ニ新規ノ事態ヲ現出セントスルモノニ無之若シ夫レ別紙第四号ニ至テハ帝國政府ニ於テ屢次内外ニ宣明シタル支那領土保全ノ大則ニ更ニ一步ヲ進メントスルモノニ過キサル次第ニ有之帝國政府ニ於テハ此機會ニ於テ東亞ニ於ケル帝國ノ地歩ヲ益確保シ大局ヲ保全センカ為以上各項目ノ実行ヲ以テ絶対ニ必要ト思考スル次第ニシテ帝國政府ハ有ラユル手段ヲ尽シテ是非共之カ貫徹ヲ図ルヘキ極メテ鞏固ナル決心ヲ有スル義ニ付貴官ニ於テモ克ク政府ノ意ノアル所ヲ体シ極力御尽瘁相成度將又別紙第五号ハ別紙第一号乃至第四号ノ各項トハ全然別個ノ問題トシテ此際支那ニ其実行ヲ勸

第一条 支那國政府ハ独逸國カ山東省ニ関シ条約其他ニ依リ支那國ニ対シテ有ユル一切ノ權利利益讓与等ノ処分ニ付日本國政府カ独逸國政府ト協定スヘキ一切ノ事項ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第二条 支那國政府ハ山東省内若クハ其沿海一帯ノ地又ハ島嶼ヲ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス他國ニ讓与シ又ハ貸与セサルヘキコトヲ約ス

第三条 支那國政府ハ芝罘又ハ龍口ト膠州灣ヨリ濟南ニ至ル鐵道トヲ聯絡スヘキ鐵道ノ敷設ヲ日本國ニ允許ス

第四条 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ居住及貿易ノ為自ラ進テ本條約附屬書ニ列記セル山東省ニ於ケル諸都市ヲ開クヘキコトヲ約ス

(大正四年往電第四号ニヨリ修正)

第四条 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ居住及貿易ノ為自ラ進テ山東省ニ於ケル主要都市ヲ開クコトヲ約ス其地点ハ別ニ協定スヘシ

(即チ支那側ヘハ最初ヨリ右ノ通修正ノ上提出シタルナリ)

第一号附屬書

高密 青州 黄県 德州 臨清

羊角溝 膠州 沙河 萊州
兗州 濟寧

参考

別紙第一号附属書中「高密、青州、黄県、德州、臨清、羊角溝」ハ第一候補地ニシテ膠州以下ハ第二候補地ナリ

(附属書二)

南滿東蒙ニ於ケル日本ノ地位ヲ明確ナラシムル
為ノ条約案

第二号(甲案)

日本国政府及支那国政府ハ支那国政府カ南滿洲及東部内蒙
古ニ於ケル日本国ノ優越ナル地位ヲ承認スルニヨリ茲ニ左
ノ条款ヲ締約セリ

第一条 両締約国ハ旅順大連租借期限並南滿洲及安奉兩鉄
道各期限ヲ何レモ更ニ九十九ヶ年ヅツ延長スヘキコトヲ
約ス

第二条 日本国臣民ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於テ各種商工
業上ノ建物ノ建設又ハ耕作ノ為ニ必要ナル土地ノ賃借權又
ハ其所有權ヲ取得スルコトヲ得

第三条 日本国臣民ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於テ自由ニ居

第七条 支那国政府ハ本条約締結ノ日ヨリ九十九ヶ年間日
本国ニ吉長鉄道ノ管理經營ヲ委任ス

第二号(乙案)

日本国政府及支那国政府ハ支那国政府カ南滿洲及東部内蒙
古ニ於ケル日本国ノ優越ナル地位ヲ承認スルニ依リ茲ニ左
ノ条款ヲ締約セリ

第一条 (甲案ノ通り)

第二条 支那国政府ハ外国人ノ居住及貿易ノ為自ラ進テ本
条約附属書ニ列記セル南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル諸都
市ヲ開クヘキコトヲ約ス

第三条 支那国政府ハ兩締約国臣民カ合弁ニ依リ南滿洲及
東部内蒙古ニ於テ農業及附属工業ノ經營ヲ為セントスル
トキハ之ヲ承認スヘキコトヲ約ス

第四条 以下ハ甲案ノ通り

第二号乙案附属書

鄭家屯(遼源県) 海龍 通化
錦州(錦 県) 醴 泉(突泉県) 小庫倫(綏東県)
熱河(承德県) 開魯県 林西
四平街 開原 掬鹿(西豊県)
大柞痘(西安県) 北山城子(山城子) 撫順

住往来シ各種ノ商工業及其他ノ業務ニ従来スルコトヲ
得

第四条 支那国政府ハ本条約附属書ニ列記セル南滿洲及東
部内蒙古ニ於ケル諸鉱山ノ採掘權ヲ日本国臣民ニ許与
ス

(大正四年往電第四号ニヨリ修正)

第四条 支那国政府ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル鉱山
ノ採掘權ヲ日本国臣民ニ許与ス其採掘スヘキ鉱山ハ別
ニ協定スヘシ(即チ支那側ヘハ最初ヨリ右ノ通ニ修正
訂正セルナリ)

第五条 支那国政府ハ左ノ事項ニ関シテハ予メ日本国政府
ノ同意ヲ經ヘキコトヲ承諾ス

(一) 南滿洲及東部内蒙古ニ於テ他国人ニ鉄道敷設權ヲ与
ヘ又ハ鉄道敷設ノ為ニ他国人ヨリ資金ノ供給ヲ仰クコ
ト

(二) 南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル諸稅ヲ担保トシテ他国
ヨリ借款ヲ起スコト

第六条 支那国政府ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル政治財
政軍事ニ関シ顧問教官ヲ要スル場合ニハ必ス先ツ日本国
ニ協議スヘキコトヲ約ス

本溪湖 興 京 懷 仁(頓仁県)
大孤山 長 春 伊通州
農 安 額 穆 索(額穆県) 敦 化
盤 石(磨盤山) 安 図 大 賚
朝 陽

参 考

別紙第二号乙案附属書中「鄭家屯、海龍、通化、錦州、醴
泉、小庫倫、熱河、開魯県、林西ハ第一候補地ニシテ四平
街以下ハ第二候補地ナリ

第二号甲案乙案附属書

一、奉 天 省

所在地	県名	礦種
一 牛心台	本 溪	石 炭
二 田什付溝	同 上	同 上
三 杉松崗	海 龍	同 上
四 鉄 廠	通 化	同 上
五 暖 池 塘	錦 州	同 上
六 鞍山站一带	遼陽県ヨリ 本溪県ニ亘ル	鉄

二、吉林省ノ南部

所在地	県名	礦種
一 杉松崗	和龍	石炭、鉄
二 缸窰	吉林	石炭
三 夾皮溝	樺甸	金

三、東部内蒙古

所在地	旗、県名	礦種
一 五家	喀喇沁右翼旗	石炭
二 石頭墳	同上	同上
三 新邱	土默特左翼旗	同上
四 三義店	土默特右翼旗	同上
五 紅花溝	赤峰	金

(附屬書三)

漢冶萍公司ニ関スル取極案

第三号

日本国政府及支那国政府ハ日本国資本家ト漢冶萍公司トノ間ニ存スル密接ナル関係ニ顧ミ且兩國共通ノ利益ヲ増進セシカ為左ノ條款ヲ締約セリ

第一条 両締約国ハ将来適當ノ時機ニ於テ漢冶萍公司ヲ両

第五号

一、中央政府ニ政治財政及軍事顧問トシテ有力ナル日本人ヲ傭聘セシムルコト

二、支那内地ニ存在スル日本ノ病院、寺院及学校ニ対シテハ其土地所有権ヲ認ムルコト

(大正四年一月十五日本省ニ於テ小幡書記官ニ托シタル説明書ニヨリ修正)

二、支那内地ニ於ケル(以下同上)

三、従来日支間ニ警察事故ノ發生ヲ見ルコト多ク不快ナル論争ヲ醸シタルコトモ勘カラザルニ付此際必要ノ地方ニ於ケル警察ヲ日支合同トシ又ハ此等地方ニ於ケル支那警察官庁ニ多数ノ日本人ヲ傭聘セシメ以テ一面支那警察機関ノ刷新確立ヲ図ルニ資スルコト

四、日本ヨリ一定ノ数量(例ヘハ支那政府所要兵器ノ半数)以上ノ兵器ノ供給ヲ仰キ又ハ支那ニ日支合弁ノ兵器廠ヲ設立シ日本ヨリ技師及材料ノ供給ヲ仰クコト

五、武昌ト九江南昌線トヲ聯絡スル鐵道及南昌杭州間、南昌潮州間鐵道敷設権ヲ日本ニ許スルコト

六、福建省ニ於ケル鐵道、鉱山、港湾ノ設備(造船所ヲ含ム)ニ関シ外国資本ヲ要スル場合ニハ先ツ日本ニ協議ス

国ノ合弁トナスコト竝支那国政府ハ日本国政府ノ同意ナクシテ同公司ニ属スル一切ノ權利財産ヲ自ラ処分シ又ハ同公司ヲシテ処分セシメサルヘキコトヲ約ス

第二条 支那国政府ハ漢冶萍公司ニ属スル諸鉱山附近ニ於ケル鉱山ニ付テハ同公司ノ承諾ナクシテハ之カ採掘ヲ同公司以外ノモノニ許可セサルヘキコト竝其他直接間接同公司ニ影響ヲ及ホスヘキ虞アル措置ヲ執ラントスル場合ニハ先ツ同公司ノ同意ヲ經ヘキコトヲ約ス

(附屬書四)

中国ノ領土保全ノ為ノ約定案

第四号

日本国政府及支那国政府ハ支那国領土保全ノ目的ヲ確保セシカ為茲ニ左ノ條款ヲ締約セリ

支那国政府ハ支那国沿岸ノ港湾及島嶼ヲ他国ニ譲与シ若クハ貸与セサルヘキコトヲ約ス

(附屬書五)

中国政府ノ顧問トシテ日本人傭聘方勸告其他

ノ件

ヘキコト

七、支那ニ於ケル本邦人ノ布教権ヲ認ムルコト

(附屬書六)

膠州灣租借地還附ニ関スル件

第六号

支那国政府ハ日本国政府カ膠州灣租借地ヲ支那国ニ還附スル場合ニハ全部之ヲ商港トシテ開放スヘキコトヲ約シ且日本国政府カ其指定スル地区ニ日本專管居留地ヲ設置スルコトニ同意ス

(附屬書七)

中国側ニ対シ日本ヨリ提供シ得ル事項

本件交渉ニ際シ日本ヨリ支那側ニ対シ履行ヲ約束シ得ル事項ハ概ネ左ノ如シ

一、袁大總統ノ地位竝ニ其一家ノ安全ヲ保障スルコト
二、革命党及支那留学生等ノ取締ヲ嚴重勵行スルコト又不謹慎ナル本邦商民浪人等ニ対シテハ充分注意スルコト

三、適當ノ時期ニ於テ膠州灣還付問題ヲ詮議スヘキコト
四、袁總統及關係大官叙勲奏請方又ハ贈与ノ義ヲ詮議スヘキコト

備考 右ハ日置公使ノ含迄ニ交付セラレシモノニシテ書
面ニ認メ支那側ニ差出セルモノニハ非ラス此ノ注意ハ
訓令本書ニモ記入セラル

(附屬書ハ)

参考書類(第一)乃至(第五)及(附)

参考書類目録

- 一、英国ノ威海衛租借ニ関聯シ山東省ニ於ケル独逸ノ利益ヲ害シ又ハ之ヲ争ハサルコトニ付為シタル声明ニ関スル英国青書拔萃
 - 二、山東省ニ於ケル開埠候補地ニ関スル説明
 - 三、光緒二十四年(千八百九十八年)三月六日北京ニ於テ調印シタル旅順大連灣租借ニ関スル露清条約第三條露漢訳文対照
 - 四、南滿洲及東部内蒙古地方ニ於ケル開埠候補地取調ニ関スル往復電報写全部(略ス)(註 大正三年奉天往電第一七九号ノ關係)
 - 五、漢冶萍公司ニ関スル調査
 - 六、支那ニ於ケル特殊事業投資優先權ノ実例
- 附 支那政府財政顧問トシテ日本人備聘方ニ関スル山座公使張善会談ノ要領

We do not anticipate that this policy will give any umbrage to German interest in Shantung, since it is not possible to make Wei-hai-Wei a commercial port, and it would never be worth while to connect it with the peninsula by railway. If desired, a formal undertaking on this point would be given. Of course, we could not occupy till the Japanese have left the port.

No. 7.

Sir F. Lascelles to the Marquess of Salisbury.
—(Received April 4.)—

Berlin,
April 4, 1898.

(Telegraphic.)

I communicated this morning to Baron von Richthofen the substance of your telegram of the 2nd instant. This afternoon I had a long conversation with Herr von Bülow. His Excellency said that he sees that there is no desire on the part of Her Majesty's Government to injure German interests in Shantung, but that he would like to receive a declaration with regard to German interests and

(第一)

英国ノ威海衛租借ニ関聯シ山東省ニ於ケル独逸ノ利益ヲ害シ又ハ之ヲ争ハサルコトニ付為シタル声明ニ関スル英国青書拔萃

CHINA. No. 1 (1899).

CORRESPONDENCE RESPECTING THE

AFFAIRS OF CHINA.

Page 2.

No. 2.

Mr. Balfour to Sir F. Lascelles.

Foreign Office

April 2, 1898.

(Telegraphic.)

Monday's papers will probably contain statement that we have asked for lease of Wei-hai-wei; in any case, the statement must be made by me on Tuesday in the House of Commons.

You should inform the German Government, pointing out to them that the action of Russia forces this step on us. Its sole object is to maintain the balance of power in Gulf of Pechili, which is menaced by Russia's occupation of Port Arthur.

the non-construction of railways in the sense indicated in your Lordship's above telegram, in order to prevent an unfavourable impression in the country.

His Excellency suggests a declaration to the following effect: that England formally declares to Germany that she has no intention, in establishing herself at Wei-hai-Wei, of creating difficulties for Germany in the Province of Shantung or of injuring or contesting her rights there, and more especially that in that province she will not establish railway communication.

No.31.

Mr. Balfour to Sir F. Lascelles.
Foreign Office,

April 19, 1898.

(Telegraphic.)

DECLARATION respecting Wei-hai-Wei.

Your telegram of the 4th April. German Ambassador states that the following form of Declaration is accepted by his Government:—

“England formally declares to Germany that in

establishing herself at Wei-hai-wei she has no intention of injuring or contesting the rights and interests of Germany in the Province of Shantung, or of creating difficulties for her in that province. It is especially understood that England will not construct any railroad communication from Wei-hai-wei and the district leased therewith into the interior of the Province of Shantung."

You are authorized to address a note, giving the assurance in that form, to the Minister for Foreign Affairs.

(第二)

山東省ニ於ケル開埠候補地ニ関スル説明

高密 青島ヲ去ル八十一基米、山東鉄道ノ一駅ニシテ青島
濰県間ニ於テハ最モ繁昌セル市場タリ、大正二年十二月
三十一日独逸ノ獲得セル鉄道敷設権中高密韓莊線(津浦
鉄道韓莊駅ニ達スル線)ノ起点ナリ

青州 山東鉄道沿線中濰県周村ニ次ク大都会ニシテ人口三
万五千ヲ有ス千九百八年ヨリ同十年ニ至ル三年間ノ同駅
乗車人員表左ノ如シ

一九〇八年 一九〇九年 一九一〇年
青州 三三、二二〇 二八、一三九 二九、九八七

石油、木材、古鉄等ノ嵩高品ノ輸送ハ此航路ニ依ルモノ
多シ、若シ多年ノ宿題タル小清河ノ浚渫実行サレンカ大
連方面ト濟南トハ直接汽船ヲ通シ得可ク從テ羊角溝ノ價
値復活スヘシ

膠州 清朝時代及其以前ニ於ケル一大ジャンク貿易港タリ
シカ(大運河不通ノ地点ヲ生セシ結果江蘇浙江方面ノ貢
物百貨ハ山東ヲ廻リ膠州灣ヨリ運河ニテ渤海ニ出テタル
モノナリ)、年々泥土溜積シ今日ニ於テハ海岸ヲ去ル數
哩ノ奥地トナレルノミナラス独逸ノ青島経営以來膠州ノ
ジャンクヲ青島ノ小港ニ奪フノ方針ヲ建テタルヲ以テ
年々衰微シツツアリ、而モ尚同地方ノ有力ナル市場タル
ヲ失ハス

沙河 濰県ヲ去ル百八十支那里、人口二万五千、麦稈真田
ノ中心市場ニシテ烟濰鐵道若クハ龍濰鐵道ノ予定通過地
点ナリ

萊州 龍口ヲ去ル百五十支那里、人口約四万五千、商工業
地ニアラサルモ龍口濰県鐵道沿線ノ大都会ナリ

兗州 泰安府ノ南ニ在リ津浦鐵道沿線ノ一都会ニシテ兗州
開封鐵道ノ分岐点ナリ

濟寧 兗州ノ西南ニ在ル一都会ニシテ人口十万以上ヲ有シ

黃峴 龍口ヲ去ル四十支那里(約六里)ノ地点ニアリ、人
口三万五千、特産物ナキモ山東省中最モ殷富ノ稱アル此
地方ニ於ケル大都会ナリ、市民ニ富豪多ク山東省ノミナ
ラス東三省一円ノ商工業ニ投資シ居リ金融上一大勢力ヲ
有ス烟濰鐵道ノ予定通過点ニシテ龍口濰県線敷設ノ場合
ハ当然支線ヲ敷設スルカ又ハ迂回通過スヘキ地点ナリト
ス

德州 天津ニ通スル大運河ノ河畔ニ在リ、津浦鐵道及大運
河ノ水陸兩路ヲ以テ南部直隸及西部山東ニ通ス、天津濟
南間ノ最大ノ貨物集散地ニシテ又有名ナル機器局(兵器
製造所)ノ所在地ナリ

臨清 大運河北段ノ終点(此地以南ハ泥土溜塞シテ舟楫ヲ
通シ難シ)ニシテ且河南ニ通スル衛河ノ合流点ナルヲ以
テ舟楫ノ便多ク貨物ノ集散市場ナリ、人口四万四千煉瓦
ノ製造地トシテ有名ナリ

羊角溝 濟南ヨリ渤海ニ通スル小清河(約百三十哩)ノ河
口ニ近キ地点ニ在リ小清河ハ山東鐵道ノ開通以前ニア
リテハ渤海沿岸、東三省、芝罘、龍口等ノ東部山東沿岸
ヨリ山東ノ中心タル濟南ニ通スル唯一ノ交通路ナリシモ
同鐵道開通後ハ著シク其價值ヲ減シタリ、然レ共尚塩、

兗開鐵道ノ通過地点(現今ハ兗州濟寧間開通)ナリ、又
運河ノ流域ニ当リ南江蘇ニ通スル舟楫ノ便アリテ商工業
殷盛ナリ

(第三)

光緒二十四年(千八百九十八年)三月六日北京
ニ於テ調印シタル旅順大連灣租借ニ関スル露清
條約第三条露清訳文対照

漢文ヲ翻譯シタル分

第三条 借地ノ期限ハ本條約記名調印ノ日ヨリ起草シテ二
十五年ヲ以テ限ト為ス然レトモ満期後兩國商議ノ上更ニ
延期スルコトヲ得

露文ヲ翻譯シタル分

第三条 租借期限ハ本協定調印ノ日ヨリ二十五ヶ年ト定ム
而シテ後ニ至リ兩國政府間相互ノ協定ニヨリ之ヲ延長ス
ルコトヲ得

(参考)

第九条 本條約ハ兩國全權大臣交換ノ日ヨリ施行ス本條約
ハ批准書ニ記名調印ノ後速ニ聖彼得堡ニ於テ交換スヘシ
茲ニ兩國全權大臣ハ清露兩國文ヲ以テ本條約各二通ヲ作
リ記名調印シテ証トナス兩國ノ文字ハ対照誤謬ナキモ解

釈ノトキニ於テハ露文ヲ以テ本トナス本条約ハ北京ニ於テ二通ヲ作ル

(第四)

漢冶萍公司ニ関スル調査

一、公司ニ対スル日本ノ貸付金

総額金三千五百三万円 政府関係ノ分 三千三百七万円

内訳 貸付済三千六百三万円 正金 三千四百七万円

興銀 二百三万円

貸付未済 九百万円(一部貸付開始)

二、公司ノ資本金

公称募集額 千五百三万六千元

内(一) 實際現金払込ヲ了セル額 千六百六万六千元

(二) 官利(資本金ニ対シ年八分) 滞納ノ結果株券ニ

振替ヘラレタルモノ 四百三万六千元

三、株主ノ重ナルモノ

(一) 支那 政府 二百八十五万円

(二) 盛 宣 懷 四百七十五万五元

(三) 招商局及電報局 約 二百万円

(四) 其他 一般 約五百五十万円

ヲ交附スルトシテモ要スルニ支払ノ保障確実ナラハ承諾セシムル見込アリ其余ノ六百万円ハ所持者ニ於テ二年以上モ無配当ニテ持テ余シ居ル実情ナレハ額面ノ七掛ナラハ売払フヘシト認ム即チ日本金四百万円アラハ差当リ公司株ノ半額買占実行ニ充分ナリト信ス

漢冶萍公司日支合辦大綱案

支那国政府日本資本家代表者間ニ日支合辦煤鉄廠礦株式会社ニ関スル契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

一、支那国政府ハ漢冶萍煤鉄廠礦有限公司ヲ買収シ直チニ其組織ヲ改メテ日支合辦株式会社トナス事

二、新会社ノ資本金ハ日本貨幣参千万円ト定メ支那政府株五割即チ日本貨幣参千万円日本資本家株五割即チ日本貨幣参千万円(此株金及将来配当ノ利益ハ都テ

日本金貨ヲ以テ計算ス)トシ支那政府株ハ売買譲与スルコトヲ得ス日本資本家株ハ日本人ノミニ限り売買譲与スルコトヲ得ル事

新会社ノ株主ハ損益ヲ平等ニ負担シ株式ニ対スル官利ヲ定メシテ總テ各国ニ於ケル普通株式会社ノ規定ニ準シ一切ノ業務ヲ処理スル事

三、新会社ノ取締役ハ十一名トシ其内六名ハ支那政府之ヲ

四、日支合辦ニ要スル資金

(一) 明治四十五年一月小田切盛宣懷間ニ締結サレタル合辦契約案支那側ハ日本側ヨリ千五百万円ノ支出ヲ希望シ日本側ヨリハ千三百八十三万円ニテ足レリトシ此

点未決定ノママ後日ノ協定ニ残セリ

(二) 小田切案(大正三年九月外務省ニ提出)

支那政府ヲシテ公司ヲ買収セシムル費用千万両ヲ日本ヨリ貸与スルコト即チ一千万両ヲ要ス

(三) 高木案(大正三年十二月高木陸郎外務省ニ提出)

鉱業条例第四条第二項ニ外国人ノ出資分担額ハ全資本額ノ十分ノ五ヲ逾ユルヲ得ストノ規定アリ右規定ニ依リ漢冶萍公司ハ昨年ノ株主總會ニ於テ此ノ条例ニ遵ヒ

株券ヲ発行スルコトハ決議シタルヲ以テ同公司ノ株式半数即チ約七百六十株ヲ買収スルコトヲ得可シ今株

主名簿ヲ檢スルニ盛宣懷持券中約二百萬元招商局電報局持券中ノ百万円及一般持券中ノ約八割ハ買占メ得ル

モノト見ルモ誤レル推定ニ非ス即約八百萬元ハ買占メ得ヘキ株券ナリトス而シテ右ノ内盛ノ持券ニ対シテハ

必スシモ現金ノ支払ヲ要セス日本銀行ノ定期預金券(例令ハ五ヶ年振置キ五ヶ年払利子四分)ノ如キモノ

任命シ五名ハ日本資本家ヨリ日本人ヲ選出スル事

取締役ハ社長トシテ支那人一名副社長トシテ日本人一名

並ニ専務取締役トシテ日支人各一名ヲ互選スル事

監査役ハ四名トシ二名ハ支那政府之ヲ任命シ二名ハ日本資本家ヨリ日本人ヲ選出スル事

四、會計課長トシテ日本人一名ヲ使用シ取締役会ヨリ選任

シ専務取締役ノ指揮ヲ受ケテ事務ヲ取扱ハシムヘキ事但シ将来更ニ一名ノ會計課長ヲ置キ支那人ヲ任用スルコトヲ得

五、漢冶萍煤鉄廠礦有限公司カ従来負ヘル總テノ債務及責任ニシテ確實ナル証憑アルモノハ一切新会社ニ於テ之ヲ繼承スル事

六、漢冶萍煤鉄廠礦有限公司所有ノ一切ノ財産物件及權利並ニ既得ノ特別利益ハ總テ新会社ニ於テ之ヲ引継クヘキ事

七、新会社設立以前ハ支那政府ノ任命セル代表者ト日本資本家ノ代表者トニ於テ事務ヲ弁籌スヘク定款其他ハ右代表者ニ於テ協定スヘキ事但シ本文代表者ハ日支各同数トス

八、支那政府ニ於テ漢冶萍公司買収ノ為メ必要トスル資金

ハ銀毫千万兩ヲ限り日本資本家ヨリ之ヲ貸与スル事但シ右貸借ニ関スル契約ハ別ニ之ヲ協定スヘシ

九、新会社ノ事業ハ日支合辦ニ属スルヲ以テ支那政府ハ之ニ対シ十分ノ便宜ト保護トヲ附与スル事

理由

大正二年十二月漢冶萍煤鉄廠有限公司ト新ニ零千五百万円ノ借款契約ヲ締結シテ未タ幾モナラス該契約ノ締結ヲ非トシテ政府ノ権能ヲ以テ之ヲ取消サシメント逼ル団体アリ政府モ亦委員ヲ派シテ之ヲ調査スルアリ近頃公司ハ進ンデ公司ヲ国有トスルカ若クハ官商合辦トナサンコトヲ政府ニ対シテ運動シ事態紛糾公司ノ大債権者タル本邦ヲシテ坐視スルコト能ハサラシム一面公司ノ經濟状態ヲ見ルニ前記借款ノ内六百万円ハ已ニ其交付ヲ受ケ其余ノ九百万円モ借款ノ目的タル工事ノ進捗ニ連レ続々支出セラレントスルニ際シ又モヤ経費ノ不足ヲ訴ヘテ更ニ新規借入レノ申込ヲナスニ至レリ公司カ此ノ如キ状態ニ陥リシハ要スルニ支那ニ未タスル大規模ノ工業ヲ經營スル人物ナキト現大總統袁氏ト公司ノ董事會會長盛氏トノ間ニ互ニ相容レサル個人的性格ト經歷ヲ有スルカ為メナラスンハアラス若シ公司ヲ現狀ノ儘ニ放棄シ根本的ニ解決ヲナササルトキハ舊ニ公司ノ

去リ逆支那政府及公司ノ希望スル官商合辦ノ公司タラシムンカ支那政府ト公司トノ間ノ關係ハ或ハ円滑トナルヘキモ本邦側ヨリ之ヲ見レハ徒ラニ組織ヲ複雑ニシ事局ヲ紛糾セシムルニ過キサルヘシ茲ニ於テカ日支合弁ヲ条件トシテ支那政府ヲシテ国有ヲ決行セシムルノ必要ヲ生ス即チ本邦ハ確實ナル租税収入ヲ担保トシテ支那政府ニ資金約壹千万兩(公司ヨリ政府派遣員ニ申立タル計算ニ拠ル)ヲ供給シ政府ヲシテ此資金ヲ以テ公司ヲ買取セシメタル上本邦ト合弁ヲ決行セシムルコト是ナリ(思フニ支那政府カ外国資本家ト事業ヲ合弁スルコトハ延長石油鉦ノ先例アルニヨリ政府ニ於テ絶對ニ反対スル能ハサルヘク又買取ノ際政府五百万兩ノ現金ヲ株主ニ交付シ五百万兩ハ公債又ハ確實ノ証券ヲ交付シ残余ノ現金五百万兩ヲ政費ニ流用シ得ル望アリ)今ヤ歐洲ノ列強ハ国運ヲ賭シテ抗争是レ努メ東亞ヲ顧ル十分ノ余裕ナク本邦ハ膠州灣頭ニ武威ヲ示シツツアル際ナルノミナラス支那政府ノ財政ハ目下窮乏甚シキヲ以テ本企劃ヲ実行スルノ最良時機ト云フヘシ此企劃ニシテ成効スル場合ニハ從來ノ紛糾ハ全然一掃セラレテ我地位ハ確固拔クヘカラサルモノトナルヘシ

一昨年一月成立セシ日支合弁仮契約(別紙参照此条約ノ不

大債権者タル本邦カ常ニ不安ノ地位ニ立ツヲ免レサルノミナラス或ハ恐ル外国資本家ノ公司ニ干与スル機会ヲ作り所謂百假ノ功ヲ一實ニ缺クモノアランコトヲ

根本的解決方法ヲ講セントスルニ際シ特ニ注意ヲ要スル事情ニアリ即(第一)ハ盛董事會會長ハ其性格ト經歷ニ於テ袁大總統ト相容レサルノミナラス多数ノ仇敵ヲ有スルカ為メ氏カ公司ノ要職ニ在ル間ハ公司ハ容易ニ政府竝ニ外部ヨリノ圧迫ヲ免ル能ハス且氏ノ宿痾膏盲ニ入り親シク公司ノ事ヲ視ル能ハサル現状ナレハ氏ヲシテ公司ヲ去ラシムルハ公司ヲシテ難境ヲ離脱セシムル捷徑ナランカ而カモ熟ラ氏ノ境遇ヲ觀察スルニ今日迄公司ノ地位ニ恣々タル所以ハ其私産ノ大半ヲ挙ケテ公司ニ投セシカ為ニシテ六百万円旧債借換借款ノ成立ニ因リ已ニ其全部ヲ回収セシ今日ニ於テハ最早其地位ヲ棄ツルニ吝ナラサルヘシト思ハルル事ニシテ(第二)ハ最近十年間本邦カ公司ニ投シタル資本ハ已ニ渺シトセス然ルニ昨年末ノ借款契約成立ニ依リ之ヲ倍加セシニ至リシカ支那政府ハ未タ之ヲ承認セス随テ該契約ハ何トナク不安ノ地位ニ立ツヲ免レサル事はナリ然ラハ即チ根本的解決法トハ何ソヤ夫レ公司ヲシテ現狀ヲ維持セシムルノ我ニ取リ不利ノ事情アルハ今更贅述ヲ須キサル所ナルカ

成効ニ終リシ原因ノ一ハ本邦側ニ於テ調査等ノ為メ時日ヲ徒費セシコトニ在リ今回ハ其覆轍ヲ踏マサル様注意スルコト必要ナラン)ハ公司ト本邦資本家トノ間ニ締結セラレタルモノナレトモ今回公司ヲ對手トシテ同様ノ契約ヲ締結スルコトハ到底不可能ナリ仮令公司ニ於テ之ニ同意スルコトアルモ支那政府ノ之ニ反対スヘキハ賭易キ理也但シ今回支那政府ト本邦側トノ間ニ締結スヘキ合弁案ハ大体ニ於テ一昨年ノ成案ニ準拠スルモ不可ナキカ如シ是レ前記ノ通り立案セシ所以ナリ

註 明治四十五年一月二十九日於神戸締結シタル漢冶萍公

司日支合辦仮契約大綱ハ日本外交文書第四十五卷第二

冊六二四文書附屬書ト同文ナルニ付省略ス

(第五)

支那ニ於ケル特殊事業投資優先權ノ実例

(一) 英国—山西省鉦業(製鉄運輸等ヲ含ム)

(二) 仏国—広東、広西、雲南三省鉦務

(三) 英国—湖南湖北両省鉄道

(四) 独国—山東省諸事業

(大正三年十二月三日附機密号外在支日置公使宛对支政策ニ関スル件訓令別紙第五号ノ六、福建省ニ於ケル特殊

事業ニ関スル日本投資優先権関係参考書類)

(一) 英国—山西省鉱業(製鉄運輸等ヲ含ム)

山西礦山買戻契約十二箇条ノ内(註)

訳文

第七条 山東省ノ礦業ハ既ニ之ヲ回収シテ自営トスルニ係リ福公司ハ礦山開掘製鉄運輸ニ関スル正追各章程契約ノ権ヲ一切還付シ山西省ハ決シテ外資借入ノ意思ナン但シ此次福公司カ既ニ其有スル利益ヲ還付スルニ付テハ將來山西省ノ礦業製鉄運輸等ノ事ニ對シテ万一外資借入ノ事アレハ山西省ヨリ福公司ニ通告シ若シ其条件カ他ニ較ヘテ廉ナルトキハ再ヒ協議ヲ行フヘシ然ラサルトキハ他ヨリ借入ルルモ各異議ナシ

註 山西省商務局ト福公司トノ契約一節(明治四十一年一月廿一日、林公使書信参照)

(同上原文)

贖回晉鑛合同十二條

第七条 晉省礦務既係收回自辦福公司將所有開礦製鐵轉運正續各章程合同之權一概退回晉省絶無借洋款之意惟此次福公司既將所有利益退回將來晉省礦務製鐵轉運等事萬一有籌借外款之事由晉省通告福公司果其處處較廉再行籌議

至越南之鐵路或已成者或日後擬添者彼此議定可由兩國酌商妥訂辦法接至中国界内

(右仏文)

CONVENTION between France and China complementary to the Additional Convention of Commerce of the 26th June, 1887. Signed at Peking, 20th June, 1895.

ARTICLE V.

Il est entendu que la Chine, pour l'exploitation de ses mines dans les provinces du Yunnan, du Kouangsi et du Kouang-tong, pourra s'adresser d'abord à des industriels et ingénieurs Français, l'exploitation demeurant, d'ailleurs, soumise aux règles édictées par le Gouvernement Impérial en ce qui concerne l'industrie nationale.

(一) 英国—湖南湖北西省鉄道

(Viceroy Chang to Consul-General Fraser).

TRANSLATION.

September 9, 1905.

In view of your services in obtaining for me the present loan for the resumption of the Canton-Hankow Railway and the very fair terms on which

否則另借各無異言

光緒三十三年十二月十八日

山西商務局
福公司梁

(二) 仏国—広東広西雲南三省鉱務

追定商務特別条約附則

(一千八百九十五年六月二十日)

訳文

第五条 中国カ將來雲南広西広東ニ於テ礦山ヲ開掘スル時ハ先ツ仏国商及礦山技師等ニ向テ協議シ其礦山開掘ノ事ハ仍ホ中国本土ノ礦業条例ニ遵テ処理スルコトヲ議定ス安南鉄道ノ已成ノモノ又ハ後日増築セントスルモノニ付テハ双方ヨリ之ヲ議定スルコトトシ兩國ヨリ斟酌商議シテ相当ノ処分法ヲ定メ中国境界内ニ接続シ至ルヘシ

(同上原文)

(一千八百九十五年六月二十日)

續議商務專條附章

第五条 議定中國將來在雲南廣西廣東開礦時可先向法國廠商及礦師人員商辦其開礦事宜仍遵中國本土礦政章程辦理

it has been arranged, I have the honour to give the following assurance which binds the Viceroy and Governors of the three provinces of Hupai, Hunan, and Kwangtung and their successors in office who have powers to deal with railways:—

As regards funds for the future construction of the Canton-Hankow Railway in case it is necessary to borrow abroad in addition to the amount China may herself provide, the first application shall be made to England, and if the British tender is, as regards interest and issue price, equal to the tenders of other countries, British financiers shall have the first option of undertaking the business; if in the above and other respects the tenders of other countries are fairer and more favourable than Englands, China will be free to choose the fairest and most favourable and make other arrangements for borrowing.

If funds for constructing the Canton-Hankow Railway have been borrowed from England, then for the machinery and material required for that line, apart from what China has of her own making, if bought abroad, British firms and works shall first

be applied to, and if their tenders are of similar cost to those made by other countries' firms and works, the British works shall have the first option of undertaking the orders: if the wares of other countries are excellent and price moderate, China shall be free to contract for purchase from the most suitable.

Beyond this, if within the jurisdiction of Hupei and Hunan there are other railway construction enterprises which likewise necessitate loans from abroad, they shall all be dealt with on the system set forth above as applicable to the Canton-Hankow Railway loans.

With regards to the engineers needed for the construction of the railways, I declare that one-half will be of the nation that lends the funds and the other half will be Japanese. The work will be divided into sections for undertaking, and each nation will attend to its own business. China will retain control as regards all Railway Companies, their employes, selection of land, management of line, and running of cars; the engineers will only attend to the affairs of the requisite works within

シテ傭聘シ居ル由ナルカ鉆政愈々擴張セラルルニ於テハ宜シク日本人ノ技師ヲモ傭聘サレテハ如何ト提言シタル所張ハ右独逸人傭聘ハ事實ナリ又新ニ瑞典人ヲモ傭聘スルコトトナリ居レル処追々各地方ニ鉆務監督署ヲ設置スル以上ハ外国顧問ヲ必要トスルコトアルヘキニヨリ其節ハ日本人採用ニ付考慮スル所アルヘント答ヘタルヲ以テ同公使ハ地方ハ地方トシテ先ツ中央本部ニ日本人ヲ傭聘シテハ如何ト重ネテ申入レタル処張ハ此際斯ク多数ノ外国人ヲ傭聘スルコトハ經費ノ到底許ササル処ナリト弁シ更ニ同総長ハ先ツ前述独逸人等ヲシテ各省ニ於ケル現在開掘中ノ鉆山及將來開掘スヘキ鉆山等ヲ調査セシムル筈ニテ其上ニテ夫々必要ニ応シテ分署ヲモ増設スヘキニ付兎ニ角外人傭聘ノ必要生シタル咄ニハ先ツ同公使ニ通知シ配慮ヲ煩ハスト云フカ如キ趣旨ヲ漠然ナカラ陳述シタリ

(大正三年二月二十五日附機密第八四号及同年三月十三日附機密第一一一号在北京山座公使來信參照)

(附記一)

日置公使ニ対スル訓令案

(大正三年十二月三日附)

本件ハ大正三年十一月十一日臨時閣議ノ決定ヲ見タル上十

七 对中国諸問題解決ノ爲メ交渉ノ一件 五六八

their section and may not interfere in anything else.

I am communicating officially with the officers concerned, and I have etc.

(Seal of Hukwang Viceroy).

(四) 独国—山東省諸事業

(膠州委付ニ関スル独清条約)

第三章 山東省ニ於ケル優先権

山東省内ニ於テ人ノ資本或ハ材料ニ付外國ノ助力ヲ必要トスル総テノ場合ニハ清国政府ハ先ツ此ノ種ノ事項ニ關係アル独逸国工業家及商人ニ対シ該事業及該材料ノ供給ニ從事セシムルコトヲ申出ヅルノ義務ヲ有ス

独逸国工業家及商人ニシテ斯ル事業ニ従事シ又ハ材料ヲ供給セントスル意思ナキ場合ニ於テハ清国ハ任意ニ他ノ方法ニ依ルコトヲ得ケン

(附)

支那鉆政ニ関スル顧問ニ日本人傭聘方ニ付山座公使ト張謇トノ会谈要領

大正三年二月二十三日在支山座公使ハ農商総長張謇ト会谈中同総長ニ対シ農商部ニ於テハ已ニ独逸人ヲ鉆政局顧問ト

二月二日内奏御裁可ヲ經タリ尚加藤大臣ヨリ山泉公爵ニハ十一月十八日井上侯爵ニハ同月二十三日松方侯爵ニハ同月二十九日内話ノ上其同意ヲ經タリ又大山公爵ハ病氣引籠中ナリシニ付全快ヲ俟チ大正四年一月九日同大臣ヨリ内話セラレタリ尤モ山泉公ヘハ大正三年十二月三十日加藤大臣ヨリ再度本訓令ヲ内示相成タリ

甲 支那政治ノ中心ニ接触スル事

一、中央政府ニ政治財政及軍事顧問トシテ有力ナル日本人ヲ傭聘セシムル事

二、袁大總統ニ対シ其一身一家ノ安全ハ実力ヲ以テシテモ之ヲ保護スヘキ旨ノ保障ヲ与フル事

乙 日支兩國国民意志ノ疏通ヲ計ル事

一、極東全局ノ維持ノ為ニハ日支兩國国民相信シ相頼ルノ必要アルハ言ヲ俟タサル事ナルヲ以テ兩國有力ナル新聞雜誌等ヲシテ其方針ヲ以テ民心ヲ誘導セシムヘキ事ヲ兩國間ニ約束スル事

二、商業會議所其他ノ実業家ノ団体ヲシテ支那ノ重立チタル地方ニ於ケル実業家団体ト相接触スルノ方法ヲ講セシムルノ外別ニ支那国情ニ通シ信頼スヘキ有志者ヲ

シテ領事ヲ補助シテ支那実業家間ニ親日ノ意嚮ヲ開拓セシムル事

对支要求条項

M一、旅順大連租借期限ハ千九百二十三年三月廿七日ヲ以テ滿了ス南滿鐵道ハ千九百八十三年七月十四日ニ至レハ無償ニテ支那政府ノ手ニ歸スヘキモノナリト雖モ支那政府ニシテ之ヲ買取セントセハ千九百卅九年七月十四日以降ニ至レハ之ヲ実行シ得ヘシ
安奉鐵道ハ千九百廿三年十二月二十二日(此期限ニ付テハ他ノ解釈モアリ)ニ至レハ支那政府ハ買戻ノ權利アリ
各期限ヲ何レモ九十九ヶ年ツツ延長スル事

M二、滿蒙ニ於ケル開墾ノ増設

(候補地ハ別表第一号ノ通り)

M三、滿蒙ニ於テ日支人ノ合弁ヲ以テ農業及附隨工業ノ經營ヲ為サントスル場合ニハ支那官憲ニ於テ之ヲ承認スルコト

M四、別表第二号列記ノ滿蒙ニ於ケル諸鉱山ノ採掘權ヲ日本人ニ与フル事

別削記ル
十三、山東省及福建省ニ於テ他国人ニ鐵道敷設權河海航行權ヲ与フル場合諸稅ヲ担保トシテ他国ヨリ借款ヲ起サントスル場合、他国人ニ鉱山採掘權ヲ与ヘントスル場合、政治財政軍事ニ関スル顧問教官ヲ要スル場合等ニ於テ予メ日本ノ同意ヲ經ヘキ事ハ滿蒙ニ於ケルト同様タルヘキ事

別削記ル
十四、三都澳ヲ九十九ヶ年間日本ニ貸与スルコト

別削記ル
十五、武昌ト九江南昌線トヲ聯絡スル鐵道及九江杭州間、南昌潮州間鐵道敷設權ヲ日本ニ許与スルコト

別削記ル
十六、将来適當ノ時機ニ於テ漢冶萍公司ヲ日支合弁トナス事及同公司ニ屬スル一切ノ權利財産ハ日本ノ同意ナクシテ処分セシメサルヘキ旨支那政府ニ於テ声明スル事
十七、日本ヨリ一定ノ數量以上ノ兵器ノ供給ヲ仰ク事

別表第一号 本省案

開墾候補地

- 一、四平街
- 二、鄭家屯(遼源縣)
- 三、開原
- 四、海龍

M五、滿蒙ニ於テハ日本ノ同意ナクシテ他国人ニ鐵道敷設權、領水航行權ヲ与ヘサル事

鐵道敷設ノ為メニ他国人ヨリ資金ノ供給ヲ仰ク場合ニ於テ予メ日本ノ同意ヲ經ヘキ事

M六、滿蒙ニ於ケル諸稅ヲ担保トシテ他国ヨリ借款ヲ起サントスルトキハ其目的ノ何タルヲ問ハス必ス予メ日本ノ同意ヲ經ヘキ事

M七、滿蒙ニ於ケル政治財政軍事ニ関シ顧問、教官ヲ要スル場合ニハ必ス先ツ日本ニ協議スヘキ事

S一、山東省又ハ其他ノ地方ニ関シ独逸國カ条約其他ニヨリ支那國ニ對シテ有スル一切ノ權利利益讓与等ノ処分ニ付キ日本カ独逸ト協定シタル一切ノ事項ハ支那ニ於テ之ヲ承諾スヘキ事

S二、山東省ノ不割讓約束

S三、龍口ト膠濟鐵道トヲ聯絡スヘキ鐵道敷設權ノ讓与

S四、青島ヲ支那ニ還附スル場合ニハ支那ハ全部之ヲ商港トシテ開放シ且指定スル土地ニ於テ日本專管居留地ヲ設ル事

別削記ル
十二、山東省將軍ニ於テ政治財政軍事ニ関スル日本人顧問ヲ傭聘スル事

- 五、撫鹿(西豊縣)
- 六、豐安
- 七、通化
- 八、懷仁(桓仁縣)
- 九、本溪湖
- 十、北山城子(山城子)
- 十一、撫順
- 十二、興京
- 十三、熱河(承德縣)
- 十四、錦州(錦縣)
- 十五、朝陽
- 十六、小庫倫(綏東縣)
- 十七、開魯縣

開墾候補地(各領事意見)

○印ハ本省案ト重複ノ分

- 一、鄭家屯(遼源縣) 落合、土谷、酒匂、竹内
- 二、興京(新賓堡) 落合、吉田
- 三、海龍 落合、酒匂
- 四、錦州 落合、竹内

- 五、通 化 落合、吉田
- 六、懷 仁(桓仁県) 落合、吉田
- 七、醴 泉(突泉) 落合
- 八、大孤山 吉田
- 九、掏 鹿(西豊) 酒勾
- 十、大疙疸(西安) 酒勾
- 十一、長 春(特ニ六里四方) 河野
- 十二、伊通州 河野
- 十三、農 安 落合、河合
- 十四、伯都訥又ハ大賚 落合、土谷
- 十五、敦 化 鈴木
- 十六、額穆索(額穆県) 鈴木
- 十七、安 図 鈴木
- 十八、呼瑪県 吉原
- 十九、漠 河 吉原
- 二十、林 西 落合
- 二十一、小庫倫(綏東県) 落合、土谷、竹内
- 二十二、朝 陽 落合、土谷
- 二十三、熱 河(承德県) 落合、土谷

- △七、通 化
- 八、懷 仁(桓仁県)
- 九、本溪湖
- 十、北山城子(山城子)
- 十一、撫 順
- 十二、興 京
- △十三、熱 河(承德県)
- △十四、錦 州(錦 県)
- 十五、朝 陽
- △十六、小庫倫(綏東県)
- △十七、開魯県
- △十八、醴 泉(突泉県)
- 十九、大孤山
- 二十、長 春
- 二十一、伊通州
- 二十二、大 賚
- 二十三、敦 化
- 二十四、額穆索(額穆県)
- 二十五、安 図
- △二十六、林 西

○二十四、開 魯 落合
備考 牛莊、哈爾賓、吉林ヨリハ意見未着

滿鉄樺山理事ノ意見ニ依レハ尚ホ左記ノ地点
ヲモ開埠候補地トシテ列举セリ

- 一、朝陽鎮(朝陽トハ異レリ)
- 二、雙城堡
- 三、榆樹県
- 四、巴 林
- 五、白音太来
- 六、呼 蘭
- 七、北团林子

各領事意見ニ基キ作成

△印ハ主ナルモノ

- 一、四平街
- △二、鄭家屯(遼源県)
- 三、開 原
- △四、海 龍
- 五、掏 鹿(西豊県)
- 六、農 安

- 二十七、大疙疸(西安県)
- 二十八、盤 石(磨盤山)

広田書記官調査

第一案

- (イ) 膠州、高密、青州(山東鉄道沿線)
- (ロ) 登州、黄県、萊州
沙河、昌邑 (計画線タル煙灘鉄道若クハ龍口灘
県鉄道沿線)
- (ハ) 德州、泰安、兗州
濟寧、曹州 (津浦鉄道及ヒ開兗鉄道沿線)
- (ニ) 臨清、東昌 (何レカ一ハ山東鉄道延長予定線ノ
經過地点)
- (ホ) 嶧 嶧 (嶧県鉄道終点、礦山所在地)
- (ヘ) 羊角溝
- △第一候補地トス
- (イ) 膠州 △高密 △青州
- (ロ) △黄県 沙河 萊州
- (ハ) △德州 兗州 濟寧
- (ニ) △臨清
- (ホ) △羊角溝

◎石頭墳	承德県 同上	五家炭山ノ東々北三里余、老哈河ノ左岸ニアリ、炭田総坪約七千三百萬坪、炭量十一億萬噸ナリト云フ
◎新邱	阜新県 同上	新民府ノ西方約三十余里、炭田ノ広サ十里ニヨリ炭層六十呎スト云フ
◎三義店	朝陽県 同上	朝陽ノ東北約十里、炭質佳良炭層深ク且広大ニシテ炭坑ノ価値新邱ニ劣ラサルヘント云フ
里城子	阜新県? 同上	阜新ノ南方十余里、炭質良好ナリト云フ
元宝山	赤峰県 石炭	赤峰ノ東方約十里、炭質良好ナレトモ交通不便ナリ
金廠溝	豊寧県 金	承德ノ北々西約二十里

(附記二)

第二、訓令案

甲号 極秘

第一 山東省関係ノ分

- 一、山東省ニ関シ独逸国カ条約其他ニヨリ支那国ニ対シテ有スル一切ノ権利利益等ノ処分ニ付キ日本カ独逸ト協定シタル一切ノ事項ハ支那ニ於テ之ヲ承諾スヘキコト
- 二、山東省ノ不割譲約束
- 三、芝罘又ハ龍口ト膠濟鉄道トヲ聯絡スヘキ鉄道敷設権ノ譲与
- 四、膠州灣ヲ支那ニ還附スル場合ニハ全部之ヲ商港トシテ開放シ且日本ノ指定スル地区ニ於テ日本專管居留地ヲ設クルコト
- 五、山東省ニ於ケル開埠ノ増設

(候補地ハ目下調査中)

第二 滿蒙関係ノ分

- 支那政府ハ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル日本ノ優越ナル地位ヲ認メ左ノ諸項ヲ承諾スルコト
- 一、旅順大連租借期限ハ千九百二十三年三月二十七日ヲ以

◎紅花溝	赤峰県 同上	赤峰西約七十里、鉄区廣大ニシテ礪目スルニ足ル
東転山子	同上 同上	赤峰ノ正東二十里
承平	喀喇沁右翼旗 銀	五家ノ東北約二十里

(欄外註記)
撫順炭坑ノ総面積ハ五百萬坪
含有炭量約クモ八億萬噸

附記
本件交渉ニ際シ日本ヨリ支那側ニ対シ履行ヲ約束シタル事項ハ概ネ左ノ如シ
一、袁世凱ノ一身一家ノ安全ヲ保障スル事
二、革命党及支那留学生等ノ取締ヲ嚴重勵行スル事
三、膠州灣還付問題ヲ詮議スヘキ事
四、袁總統及關係大官叙勲奏請方又ハ贈与ノ義ヲ詮議スヘキ事
五、義和団賠償金支払義務全部又ハ一部ノ免除ヲ詮議スヘキ事

- テ満了ス南滿鉄道ハ千九百八十三年七月十四日ニ至レハ無償ニテ支那政府ノ手ニ歸スヘキモノナリト雖モ支那政府ニシテ之ヲ買取セントセハ千九百三十九年七月十四日以後ニ至レハ之ヲ実行シ得ヘシ
- 安奉鉄道ハ千九百二十三年十二月二十二日(此期限ニ付テハ他ノ解釈モアリ)ニ至レハ支那政府買戻ノ権利アリ
- 右期限ヲ何レモ更ニ九十九年ツツ延長スルコト
- 二、南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル開埠ノ増設
- (候補地ハ目下調査中)
- 三、南滿洲及東部内蒙古ニ於テ日支人ノ合弁ヲ以テ農業及附随工業ノ経営ヲ為サントスル場合ニハ支那官憲ニ於テ之ヲ承認スルコト
- 四、日本ニ於テ特ニ指定シタル南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル諸鉄山ノ採掘ヲ日本人ニ与フルコト
- (候補鉄山ハ目下調査中)
- 五、南滿洲及東部内蒙古ニ於テハ日本ノ同意ナクシテ他国人ニ鉄道敷設権ヲ与ヘサルコト
- 鉄道敷設ノ為メニ他国人ヨリ資金ノ供給ヲ仰ク場合ニ於テモ予メ日本ノ同意ヲ經ヘキコト

六、南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル諸税ヲ担保トシテ他国ヨリ借款ヲ起サントスルトキハ其目的ノ何タルヲ問ハス必ス予メ日本ノ同意ヲ經ヘキコト

七、南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル政治財政軍事ニ関シ顧問、教官ヲ要スル場合ニハ必ス先ツ日本ニ協議スヘキコト

八、吉長鉄道ヲ日本ニ讓渡スコト

第三 漢冶萍關係ノ分

一、将来適當ノ時機ニ於テ漢冶萍公司ヲ日支合弁トナスコト及同公司ニ属スル一切ノ權利財産ハ日本ノ同意ナクシテ処分セシメサルヘキ旨支那政府ニ於テ声明スルコト

二、支那政府漢冶萍公司ニ属スル諸鉱山附近ニ於ケル鉱山ニ付テハ同公司ノ承諾ナクシテハ之カ採掘ヲ同公司以外ノモノニ許可セサルコト

支那政府ハ其他直接間接同公司ニ影響ヲ及ホス虞アル措置ヲ為サントスル場合ニハ先ツ同公司ノ同意ヲ經ヘキコト

第四

支那沿岸ノ港湾及島嶼ヲ他国ニ讓与若クハ貸与セサルコト

(別紙)

对支要求提出ニ関スル鄙見

帝國政府ハ最近青島ノ陥落ニヨリ我カ軍事行動略ホ終リラ告ケ帝國ノ威力新タニ海外ヲ庄スルモノアルト共ニ歐洲ノ戦局尚ホ酣ハニシテ遠東ヲ顧慮スルノ余裕ナキ今日ヲ以テ支那ニ対スル要求提出ノ好時機トナシ我カ外務大臣閣下ハ特ニ本使ヲ召還セラレ閣議ニ於テ決定セラレタル条件ヲ内示シ兼テ本使ノ意見ヲ徴シ帰任ノ上之カ談判ニ從事スヘキコトヲ命セラル本使ハ特ニ我カ大臣閣下ノ推薦ニヨリ至尊ノ御信任ヲ辱ウシ我カ外交關係上最重要ノ地タル支那ニ駐劄スルノ榮遇ニ膺リ而シテ偶々我カ国運ノ進展ニ対スル千載一遇ノ好機ニ際シ重要ナル談判ノ衝ニ立ツニ至リ自ラ驕賒ニ鞭チ其大任ヲ全クセシコトヲ期セリ意フニ今回ノ要求ハ即チ現在ノ時局ニ際シ國家ノ執リタル外交及軍事行動ノ一結果ト支那全体殊ニ滿蒙ニ対スル我カ優越ナル權力ノ発動ニシテ寧ろ温和ニシテ至当ノ要求ト称スヘキモ其ノ成功ノ如何ハ支那ニ対スル我カ国運ノ汚隆消長ト我カ国力ノ伸縮盛衰トニ関スルノミナラス併セテ世界ニ於ケル帝國ノ威信ト名誉トニ関シ万一其談判ニシテ所期ノ目的ヲ達スルコト能ハサレハ累ヲ外交ノ前途ニ及ホシ且ツ我カ对内關係ニ影

附記

本件交渉ニ際シ日本ヨリ支那側ニ対シ履行ヲ約束シ得ル事項ハ概ネ左ノ如シ

- 一、袁世凱ノ一身一家ノ安全ヲ保障スルコト
- 二、革命党及支那留学生等ノ取締ヲ嚴重勵行スルコト又不謹慎ナル本邦商民浪人等ニ対シテハ充分注意スルコト
- 三、極東ノ平和ヲ紊乱スヘキ源泉タル独逸ノ勢力根絶スルヲ俟チ適當ノ時期ニ於テ膠州灣還付問題ヲ詮議スヘキコト

- 四、袁總統及關係大官叙勳奏請方又贈与ノ義ヲ詮議スヘキコト
- 五、義和團賠償金支払義務全部又ハ一部ノ免除ヲ詮議スヘキコト

五六九 十二月三日 在中国日置公使ヨリ 加藤外務大臣宛

中国ニ対スル要求提案ニ関スル意見上申ノ件

公信号外(機密)

東京大正三年十二月三日附

对支要求提出ニ関スル鄙見別紙ノ通り供高覽候間御査閱相成度此段申進候也

響シ由リテ以テ再三政局ノ変動ヲ来タシ國家ノ大損失ヲ来スニ至ルヤモ亦タ未タ知ル可ラス談判ノ性質ハ我レニ取リ極メテ重大ニシテ其ノ着手ニ先チ予メ精細周到ナル考究ヲ加ヘ苟クモ遺漏ナキヲ期セサル可ラス之カ為要求全体及各項ニ対スル鞏固ナル理由ト談判着手ニ関スル最善ノ時機及方法手段トヲ按シ兼テ其ノ進行ニ関スル妨害及困難ノ場合ニ於ケル予防ト覚悟トニ及ヒ以テ予メ万全ノ籌画ト十分ナル成算トヲ立テサル可ラスト思惟ス

抑モ今回ノ要求中山東ニ関スルモノハ即チ青島攻撃直接ノ代償ニシテ我カ帝國ハ之カ為ニ人命ヲ賭シ国帑ヲ糜シ東洋ノ禍根ヲ抜キテ永ク平和ノ基礎ヲ樹立シタル偉大ノ事實ニ対シテハ其条件極メテ温和正当ニシテ且ツ二三ノ条件ヲ除キテハ独逸ト商議スヘキ結果ヲ予メ支那ヲシテ承認セシメントスルモノニ過キス其他滿蒙南支及一般ニ関スルモノハ其ノ条件多岐ニ亘リ就中滿蒙ニ関スルモノハ其ノ至難ナルモノナルヘキモ帝國全般ノ世界ニ対スル威力及滿蒙ニ対スル優越ナル權利ニ照ラシ飽迄我カ主張ヲ貫徹シ彼ヲシテ我カ要求ニ服従セシムヘク殊ニ新タニ戦勝ノ余威ヲ背後ニ負ヒ帝國ノ実力ヲ一身ニ代表セル本使ハ断々乎トシテ其ノ成功ヲ予期シ十分ノ確信ヲ以テ事ニ臨ミ何等ノ躊躇ヲ要セ

サルヘキハ固ヨリ其所ナリト雖之ヲ支那側ヨリ見ルトキハ我カ要求ノ基礎カ帝國国力ノ伸張ニ由リ支那ノ保全ト大局ノ維持トニ資セントスルモノナルヲ解セス之ヲ以テ純然タル利己的性質ノモノナリトシ容易ニ我カ主張ニ服従セサルノ恐アリ之カ為支那ニ對シ威喝勸誘其他ノ術策ヲ用シテ余ス所ナキト共ニ同時ニ支那以外ノ列國ニ對シ十分ナル外交手段ヲ用ユルノ必要アリ随テ我政府ハ對外關係ノ見地ヨリシ一面列國殊ニ目下戰局ノ外ニ立チ常ニ支那ノ保護者ヲ以テ自ラ任スル米國、支那ニ偉大ノ利害關係ヲ有スル我カ同盟ノ英國及ヒ支那ニ於テ我カ競争者タル露國其他ノ利害ニ及ホス影響ノ程度ヲ斟酌シ是等諸國ニ對シテハ談判ノ初メ又ハ其進行ニ妨害ヲ加ヘサルヲ為メ或ハ進ンテ相當ノ援助ヲ与ヘシムルヲ為メ適當ノ時機ニ適當ノ措置ヲ施ス等ノ手段ヲ執ララルノ必要アルヘク同時ニ根本ノ原則トシテ我カ要求条件ニシテ門戸開放機會均等ノ主義ニ抵触セザラシムルニカムルト共ニ英米露諸國カ支那ニ於テ有スル特種ノ權利利益ト衝突スルコトヲ避クルノ用意アルヲ要スヘク之カ為外交關係ノ親疏ニ隨ヒ談判ノ要領ヲ知ラシメ又ハ必要ナル説明ヲナスノ手段ヲ執ラレンコトヲ要スヘク又タ對支關係ノ見地ヨリシ支那ニ對シテハ我カ要求ニ鞏固ナル理由

(二) 革命黨宗社黨ヲ煽動シ袁政府顛覆ノ氣勢ヲ示シテ之ヲ脅威スルコト

等ニ過キス二者ヲ竝觀スルニ引誘条件ハ何レモ其ノ効力極メテ薄弱ニシテ就中(一)ノ青島還付ハ固ヨリ我レニ取り最有力ノ条件ナルモ之ヲ支那ヨリ見レハ日本カ世界ニ對スル宣言ニ本ツクモノニシテ独リ其ノ還附ヲ受ケタル支那ノ徳トスル限リニアラス或ハ又タ最近新聞電報ノ伝フル如ク支那ハ独逸ニ對スル恐怖及ヒ青島回収ニ對スル責任ノ回避ヨリシテ案外其ノ還附ヲ喜ハサルヤモ知レス又タ(二)(三)兩件ノ如キハ袁世凱ノ最重要視スル所ナレトモ確實ニ其ノ実効ヲ擧ケテ袁ノ心服ヲ得ルコト難キハ從來ノ事實之ヲ示シテ余リアルト共ニ我カ國論中袁反對ノ一派アリ政局ノ變動ト共ニ万一同派ノ勢力ヲ内閣ノ上ニ加フルニ至ルヘキヤモ亦タ測ル可ラサルハ袁自ラ之ヲ危惧シ隨テ現政府ノ保証ノミニテハ絶対ノ信頼ヲ博取スルコト能ハサルノ恐レアリ(四)ハ財政上ノ援助トナリ進ンテ義和團賠償金支払ノ延期等ニ尽力スルノ約束ヲ与フルノ更ニ有力ナルニ若カス而カモ後ノ二者ハ何レモ我カ國情ノ許ササル所ナルカ上仮令之ヲ能クスルモ其ノ收益ハ將來ニ屬シ目前焦眉ノ急ヲ救フニ足ラス寧ロ借款ノ周旋其他ノ方法ニヨリ多額ノ現金ヲ与ヘテ之

ヲ与ヘ同時ニ支那側ニ於テ実行上難易ノ事情ヲ酌量シテ条件ノ形式ヲ定メ之ヲ提示スルニ適當ノ時機ヲ捉ムト共ニ最後ニ我カ要求ヲ貫徹センカ為ニ相當ノ引誘条件ト万一場合ニ加フヘキ威圧手段トニツキ特別ノ考慮ヲ加ヘ置カンコトヲ必要ナリト思考ス

今對外關係ノ見地ヨリスル外交作用ハ之ヲ措キテ論セス對支關係ノ見地ヨリスル引誘条件ト威圧手段トニツキ之ヲ按スルニ今回本使カ内示ヲ受ケタル要求条件ニ附載セラレタル各項ハ即チ右ノ二条件ニ該當スルモノニシテ就中引誘条件ト見ル可キモノハ

(一) 膠州灣ヲ一定ノ条件ニヨリ支那ニ還付スルコト

(二) 袁大總統及其政府ノ安全ヲ保証スルコト

(三) 日本及日本法權ノ下ニ在ル革命黨員宗社黨員留学生及不謹慎ナル日本商民浪人ノ取締ヲ嚴重勵行スルコト

(四) 袁大總統及閣僚ノ叙勳ヲ奏請スルコト

等ニ過キス其外税率改正ノ提議ニ同意スヘキ条件ニシテ帝國政府ニ於テ承認サルルニ於テハ之ヲ以テ(四)トスルヲ得ンカ又タ威圧条件ト見ルヘキモノハ

(一) 山東出征中ノ軍隊ヲ現地ニ留メ我カ威力ヲ示シ彼ヲシテ我レニ何等カノ野心アルヲ疑ハシムルコト

ヲ誘フニ如カサルモ僅々一、二百万ニテハ固ヨリ袁世凱自身ヲ買収スルコト能ハサルハ言フ俟タサル所ナリ要スルニ今回ノ要求ハ我カ帝國ニ於テハ其ノ穩當ヲ極メタルモノナリト雖支那ニ取り殊ニ袁政府ノ立場ニ對シテハ案外ニ其ノ重大ナルヲ感シ其ノ承諾ニ困難ナルモノアルヲ恐ルル割合ニ之ヲ勸説シテ我カ要求ニ服従セシメントスルニハ以上引誘条件ノ効力極メテ薄弱ナルヤノ感アリ

次キニ威圧条件ノ(一)(二)モ共ニ其ノ実行ニ至難ノ事情アルヘク山東ノ我カ軍隊ハ万一一ニ際シ之ヲ動カサザレハ十分ニ威圧ノ功ヲ奏スルコト能ハス革命黨若クハ宗社黨ノ利用ハ更ニ困難ニシテ從來ト雖之カ為往々失態ヲ招クコトアリタル事實ニ徴シ寧ロ下策ト謂ハサル可ラス仮令之ヲ以テ可能ナリトスルモ果シテ幾何ノ実力ヲ有スルヤ否ヤ疑シキモノアルト共ニ煽動ノ目的ヲ覺知セハ進ンテ我用ヲ為サンメ得ヘキヤモ疑問ニ屬ス我カ帝國ノ実力ハ戰勝ノ余威ト共ニ隣國ヲ圧スルニ足ルモノアリトスルモ實際ニ之ヲ動用スルノ道ヲ得サレハ直接ニ其ノ威力ヲ發揮スルコト能ハサルヲ恐ル論シテ此ニ至レハ威圧条件モ亦タ引誘条件ト共ニ兩ツ年ヲ予期ノ効力ヲ奏シ難キニ似タリ威圧竝引誘ノ方法トシテハ尚ホ言論ノ上ニ於テ例ヘハ我大臣閣下ノ本使ニ開示セ

ラレタル通(一)支那政府ニシテ我要求ヲ容レサル場合ハ甚シク日本国民ノ反感ヲ激増シ其ノ結果一部社会ニ唱導セララル満蒙併合支那分割又ハ保護国論ノ如キ或ハ議論ヨリ進ミテ現実トナリ来ルヤモ知ル可ラス(二)然ラサルモ現ニ寺内伯ヲ正使トシ後藤男ヲ副使トシテ強硬ナル要求ヲナスヘキノ論現ニ元老間ニ唱ヘラレ(三)或ハ又民論沸騰ノ結果ハ内閣ノ更迭ヲ促カシ後継内閣ハ前後ノ事情上更ニ激烈ナル要求ヲ提出セサルヲ得サルニ至ルヘク以上何レノ場合ニ於テモ支那ノ困難ハ更ニ重大ヲ加フルニ至ルヘク(四)之ニ反シ現内閣ノ要求ハ最モ其ノ穩当ヲ極メタルモノナルニヨリ支那ノ為ニ計リ之ニ応スルヲ以テ利益トスヘク殊ニ(五)滿蒙ニ於ケル我カ主張ノ如キ日露戦争ノ結果ニ由ルニアラサレハ支那ハ滿蒙ノ領土ヲ併セテ今日ニ維持スルコト能ハス日本ハ単ニ其ノ優越ナル地歩ヲ確實ナラシメ以テ將來ノ大局ニ備ヘントスルモノニ過キス支那ニシテ之ニ従ヘハ我レ亦タ進ント支那ノ利益ヲ計ルニ力メ永ク日支親交ノ障害ヲ除去シテ兩國ノ關係始メテ円満ニ帰シ提携ノ実ヲ挙クルヲ得ルニ至ルヘキモ万一支那ニシテ之ニ応セサレハ其禍寧ロ測ル可ラサルモノアルヘキ旨ヲ説破シ其反省ヲ促カシ勸誘ニ加フルニ威圧ヲ以テシ之ニ臨ムヲ得ヘキモ言論上ノ威圧ニ対シ

シ置カレサル限り本使ノ成敗ハ事一身ノ榮辱ニ止マルモ其ノ結果ハ現政府ノ上ニ及ヒ延キテ累ヲ国家ノ上ニ及ホサンコトヲ恐ルシク論シ来レハ本使ハ条件不備ノ下ニ大任ノ衝ニ当リ十分ノ確信ナキカ如キモ帰朝以來親シク大臣閣下ノ訓示ヲ受ケ閣下苦心ノ存スル所ト国情ノ已ムヲ得サル所以トヲ察カニシ本使ハ一意専心閣下ノ訓令ヲ奉シ確乎タル決心ヲ以テ之ニ臨ムノ覚悟アルト共ニ政府ニ於テモ尚ホ進テ十分ノ措置ヲ講セラレ且ツ今後本使ヨリ隨時上申スル処ニ対シテ常ニ好意的考慮ヲ与ヘラルルモノト信シ加フルニ我カ帝國ノ威力ニ頼リ本使ノ心中自ラ一道ノ光明ヲ認メ其成功ヲ予期スル所ナキニアラサルモ事体ノ重大ナルニ鑑ミ冒昧ヲ顧ミス敢テ鄙見ヲ開陳スル次第ナリ終リニ尚ホ本使ノ鄙見トシテ当局者ノ考慮ヲ要スルモノハ(一)談判ノ進行ニ伴ヒ勢已ムヲ得スシテ兵力ヲ動カシテ対手ヲ圧迫スルノ必要アルコトヲ予期シ今後青島ニ残留セラル可キ軍隊ハ単ニ「居据リ」ノ氣勢ヲ示スノミナラス万一ノ場合尚ホ進ンテ之ヲ動用シ例ヘハ津浦鐵道北段ヲ占領スル等ノ用意アラシコトヲ要シ(二)以上最後ノ威圧手段ニ訴フルノ前引誘条件中袁世凱ニ対シ最有カナル事項ノ一ハ革命党及宗社党ノ取締ニ在ルコト勿論ナルカ右ハ從來ノ状態ニテハ効力充分ナ

テハ略ホ國際ノ關係ヲ揣摩シ外交ノ情偽ヲ洞察スルニ鋭敏ナル袁世凱ハ之ヲ以テ一場ノ洞燭トシ日本ノ声明スル所ハ必スシモ其ノ実行シ得ル所ニアラサルヲ予見シ頑乎トシテ我カ要求ニ応セサルカ如キコトアリトスレハ談判ハ茲ニ「行詰リ」トナルノ恐れアリ又其勸誘ニ対シテハ袁世凱ニシテ能ク大勢ヲ達觀スルノ明アリ日本ノ実行ト位地トニ顧ミ之ニ応スルノ意アリトスルモ袁ハ一国ノ元首ニシテ事實上宣戰講和及條約締結ノ大権ヲ有スト雖尚ホ專制政府ノ君主ニアラスシテ共和国ノ大統領ナリ今日ニ於テハ其ノ任期スラ未タ憲法上ニ規定セラルルニ至ラス現在及將來ノ國民ニ対シ重大ノ責任ヲ負ハシメントスルカ如キハ其ノ能クスル所ニアラストノ言ヲナシ而シテ自ら其位地ノ困難ヲ拯ハンカ為ニ其ノ慣用手段タル新聞政策ヲ利用シボイコト又ハ極度ノ排日熱ヲ鼓吹シ或ハ米國ニ訴ヘテ援助ヲ乞フカ又ハ独逸人ヲ使喚シテ妨害ヲ加ヘシムルニ至ルヘク兩國ノ關係國民ノ感情ハ事態紛糾シテ收拾シ難キニ至ラシムルノ恐れナキニアラス而シテ我レニ十分ノ實力アルモ遠カニ之ヲ動用スルコト能ハサルノ弱点アリ容易ニ其ノ難局ヲ開済スルノ道ナキニ至ルヤモ知ル可ラス帝國政府ニシテ預メ其ノ困難ヲ排脱シテ最後ノ成功ヲ取ムルノ手段方法ヲ尽

ラサルニ付政府ハ本問題ニ関シ根本的研究ヲ加ヘ今一層袁ノ満足ヲ得ル具体的方法ヲ講究シ置カルルノ要アリ(尤モ談判ノ或ル時期迄ハ寧ロ之ヲ利用シテ反抗ノ氣勢ヲ示サシムルコト時宜ニヨリ必要ナルヘシ)(三)滿蒙五鐵道細目協定ノ結果ニ依リテハ前渡金トシテ二百萬元ヲ支那政府ニ交付スルコトヲ得可シトノ内議アルニ就テハ小田切ハ可成至急北京ニ向ハシメ細目ノ協定ニ從事シ前渡金ノ交付ヲ以テ引誘条件ノ作用ヲナサシムルノ要アリ(四)談判ノ進行ニ伴ヒ南支鐵道要求ニシテ承諾ノ見込附カハ其ノ前渡金ヲ以テ前項同様ノ手段ニ供用スルヲ得可キ次第ニ付同シク其資金ノ支出ニツキ預メ準備ノ要アリ(五)借款ノ周旋ニヨリ袁政府焦眉ノ急ヲ救フコトヲ得ルハ此際対手ヲ動カスニ最有力ノ条件ニシテ假令我カ財政經濟ノ現状ニ照ラシ之ヲ以テ至難ノ事柄ナリトスルモ可出来得丈之ヲ講究ト計畫ヲ試ムルノ要アリ(六)袁世凱ニシテ已ムヲ得ス我カ要求ニ服従スルノ決心アリトスルモ彼レハ必ス其ノ左右ニ責任ヲ分ツノ士ヲ求ムヘク一、二百万ノ金員ヲ以テ袁自身ヲ買取スルコトハ全然不可能ナリトスルモ是等左右ノ人物ハ或ハ啗ハスニ利ヲ以テスルヲ得可ク尚ホ談判ノ進行ニ伴ヒ新聞操縱其他鈔カラサル機密費ヲ要ス可ク政府ハ預メ右ノ資金ヲ準備シ置カ

七 对中国諸問題解決ノ為ノ交渉一件 五七〇 五七一
ルノ要アリ以上六項ハ即チ本使カ今日ニ於テ預メ当局ノ
考慮ヲ請ハントスル事項ナルニツキ茲ニ之ヲ附記セリ当局
者ハ之ニ十分ノ詮議ヲ加ヘ追テ何分ノ訓令アランコトヲ希
望ス

五七〇 十二月十三日 加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛 (電報)

对中国交渉開始前ニ連絡方電訓ノ件

第六〇七号

日置公使帰任ノ上ハ左ノ通り伝ヘラレ度シ

十二月三日附機密号外对支交渉ノ件貴官ニ於テ準備整ヒ次
第袁世凱ニ会见ヲ求ムルノ手續ヲ執ラルルニ先チ一応当方
ニ電報シ何分ノ回訓ヲ待タル様致度シ

五七一 十二月十八日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

交渉開始ノ時期ヲ一月中旬トスルヲ得策トスル
旨上申ノ件

第八六九号

对支政策ニ関スル十二月三日附御訓令ニ関シ本使帰任後直
ニ開談ノ準備ニ著手シ居ルモ篤ト諸般ノ情勢ヲ探究シタル

五七三 十二月二十二日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛 (電報)

大總統ノ年末年始ノ休暇ニ付回報ノ件

第八七六号

貴電第六一八号ニ関シ大總統ハ十二月二十八日ヨリ二週間

五七二

五九六

所支那側ニ於テハ時局ニ関聯シ帝國政府ヨリ何等カノ提議
ヲナスニ至ルヘント予期シ居ルニハ相違ナキモ一般ニ右ハ
歐洲戦局終了ノ上ナルヘント觀察シ居ルモノノ如シ從ヒテ
本使帰任ニ就テモ格別注意ヲ払ヒ居ラサル実況ナルト共ニ
今年年末モ近ツキ居ル際ナルヲ以テ此際取急キ提議ヲナス
モ支那ノ慣例トシテ年末年始ノ休暇ノタメ自然進行ヲ妨ケ
ラルル虞アルニ付若シ他ノ事情ニシテ之レヲ許スニ於テハ
一月中旬ニ至リ交渉ヲ開始スル方得策ナランカト思考ス至
急何分ノ義電訓アリタシ

五七二 十二月二十一日 加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛 (電報)

開談ノ時期ハ追テ電訓スベキニ付至急準備シ置カレ
タキ旨指示ノ件

第六一八号

貴電第八六九号ニ関シ

袁總統トノ開談ノ時機ニ付テハ追テ何分ノ義可申進モ当方
ヨリ電訓次第何時ニテモ会见ヲ求メ得ラルル様準備丈ハ至
急整ヘ置カレ度シ尚支那側年始ノ休暇ハ何日間ナリヤ電報
アリタシ

觀見ヲ廢シ右ノ期間内政事堂ノ常例会議ヲ休止スヘキ趣ナ
リ